

「吉里吉里人」の舞台 井上ひさし



ほうらいじま 蓬莱島
アクセス 大槌駅より車で8分
所在地 大槌町赤浜

ご存じ、井上ひさし氏の「ひょっこりひょうたん島」のモデルの一つと言われる、大槌湾にぽっかり浮かぶ蓬莱島。山々の緑が濃くなるにつれ、蓬莱島はますます劇中の「ひょうたん島」をほうふつとさせます。
井上氏が小説のタイトルに大槌の地名を用いた「吉里吉里人」。お隣の釜石に住んでいた当時の井上氏は、仕事で大槌をたびたび訪れていたと言われ、どこか大槌の風土には、作家の創造をかき立てる浪漫が潜んでいるのかもしれないね。



ぼくも
待ってるよ!!



教育とサーモン養殖、ジビエのまち「おおつち」

・人口 10,537人 (2024.8.31)

大槌の教育のあゆみ



2011 (H23) 2012 (H24) 2013 (H25) 2014 (H26) 2015 (H27) 2016 (H28) 2017 (H29) 2018 (H30) 2019 (H31-R1) 2020 (R2) 2021 (R3) 2022 (R4) 2023 (R5)

●3月 東日本大震災津波 (町内児童生徒) 仮設入居率
39.5% 34.9% 33.0% 23.9% 19.4% 12.2% 0%

校舎建設
統廃合

●9月 大槌小・大槌北小・安渡小・赤浜小
大槌中 合同仮設校舎で授業開始

●9月 大槌学園
本設新校舎で授業開始

小中一貫
(0歳から
18歳まで)

●4月 4校を1校に
新大槌小学校として開校

●4月 大槌高校魅力化事業開始

●11月 小中一貫全国サミットinおおつち開催

●4月 小中一貫教育開始
大槌学園・吉里吉里学園開校

●4月
けやき
共育
開始

教育課程
特例校～H30
ふるさと
科

● 小中一貫教育連絡
協議会開催

●4月 大槌学園
義務教育学校に移行(全国
22校⇒R5 207校)

●6月 大槌町子供の学び基本条例制定

●4月「ふるさと科」試行

●3月 大槌町教育大綱公示 ●4月 1人1台端末整備

●「ふるさと科」推進会議

●4月「ふるさと科」開始

●7月「目指す子ども像」協議

●7月「目指す子ども像2020」協議

●学校支援コーディネーター配置

●CSコーディネーター配置

●学校支援地域協議会開催

●7月 学校運営協議会設置

●4月 コミュニティ
スクール委員会設置

コミュニ
ティ
スクール

●4月 両学園を
コミュニティ・スクールに指定

放課後
学びの場

●9月 子どもセンター開始

●4月 放課後子供教室開始
大槌町こども教育センター
「OLA I」開所

●12月 コラボ・スクール大槌臨学舎開始

●4月 きりっこスクール開始

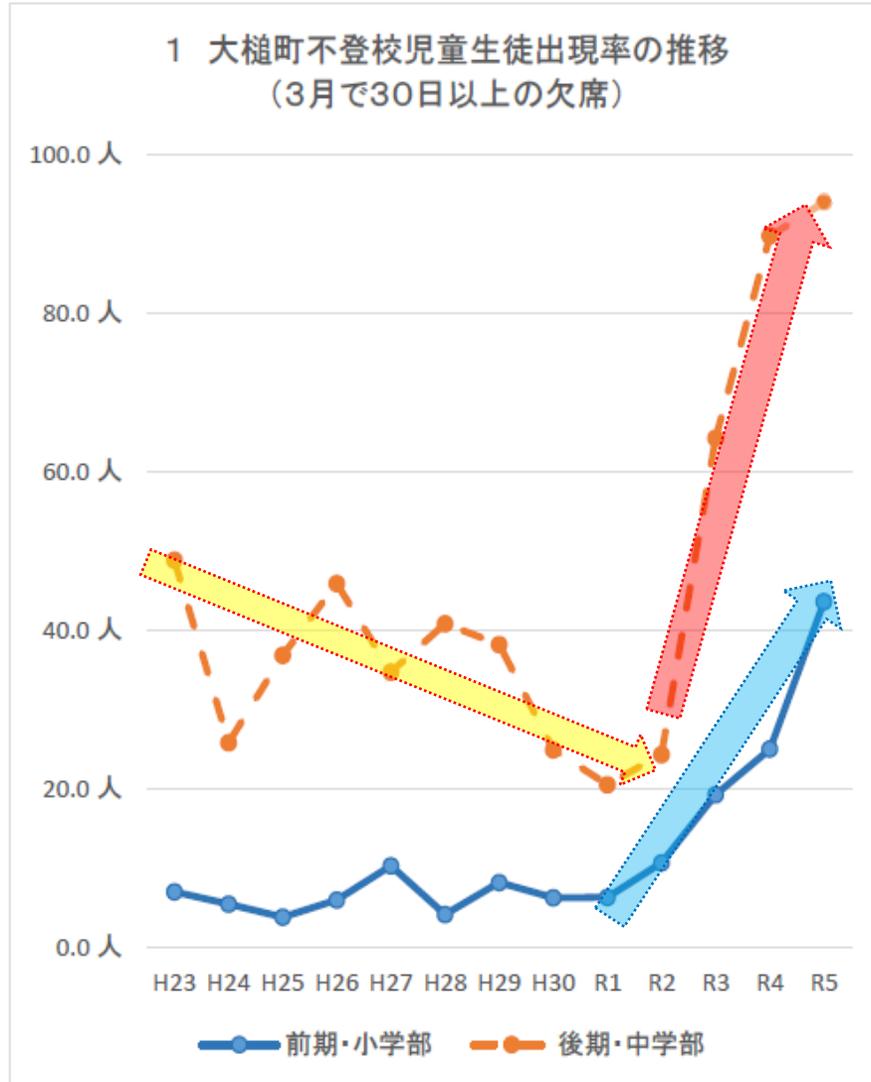


不登校（傾向）児童生徒の急激な増加



1 大槌町不登校児童生徒出現率の推移（3月で30日以上欠席）

	前期・小学部			後期・中学部		
	不登校児童生徒数	児童数 *3月時点	出現率 ※1000人あたり	不登校児童生徒数	生徒数 *3月時点	出現率 ※1000人あたり
H23	4	576	6.9人	19	389	48.8人
H24	3	556	5.4人	9	349	25.8人
H25	2	533	3.8人	13	353	36.8人
H26	3	507	5.9人	15	327	45.9人
H27	5	488	10.2人	11	317	34.7人
H28	2	487	4.1人	12	294	40.8人
H29	4	491	8.1人	10	262	38.2人
H30	3	484	6.2人	6	241	24.9人
R1	3	481	6.2人	5	244	20.5人
R2	5	470	10.6人	6	247	24.3人
R3	9	468	19.2人	16	249	64.3人
R4	12	481	24.9人	21	234	89.7人
R5	20	459	43.6人	22	234	94.0人
	全国(R4)		17.0人	全国(R4)		60.0人



「けやき共育」(大槌型特別ニーズ教育)の体制



「けやき共育」の最上位目標と達成のための手立て



○ 「けやき共育」の達成すべき**最上位目標**

すべての子供達に、特別ニーズ教育の視点で支援を行うことで

1 すべての子供達が、安心・安全に生活・学習ができる

※すべての子供達のウェルビーイングの実現 

2 すべての子供達が、適切に支援を受けることができる

「おおつち」を訪れるだけで何かを感じていただけるはず、関係者や地域の方の声を聞くことでなんらかの学びが生まれるはず、そして、何より「おおつち」が好きになってくれるはず 

この最上位目標を達成するために手立て

1 新規の不登校児童生徒を未然に防ぐ取組

- 未就学児童や就学後の早い段階での相談・支援体制の充実
- 子供が主語の安心・安全な学園・高校づくり

2 不登校児童生徒への支援

- 児童生徒に自宅以外の学びの場の設定
- 家族以外の大人からの支援の充実
- 保護者の相談や関わりの場の機会確保

3 上記の1, 2の両方にかかわって

- 0歳から18歳までの主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- 特別ニーズ教育の視点での子供の支援
- 首長部局、教育関係団体との連携・協働
- 地域住民の理解と支援
- 充実した研修体制

大槌町は皆さんの研究を全力でサポートします



大槌町は、チームで課題を解決する町です

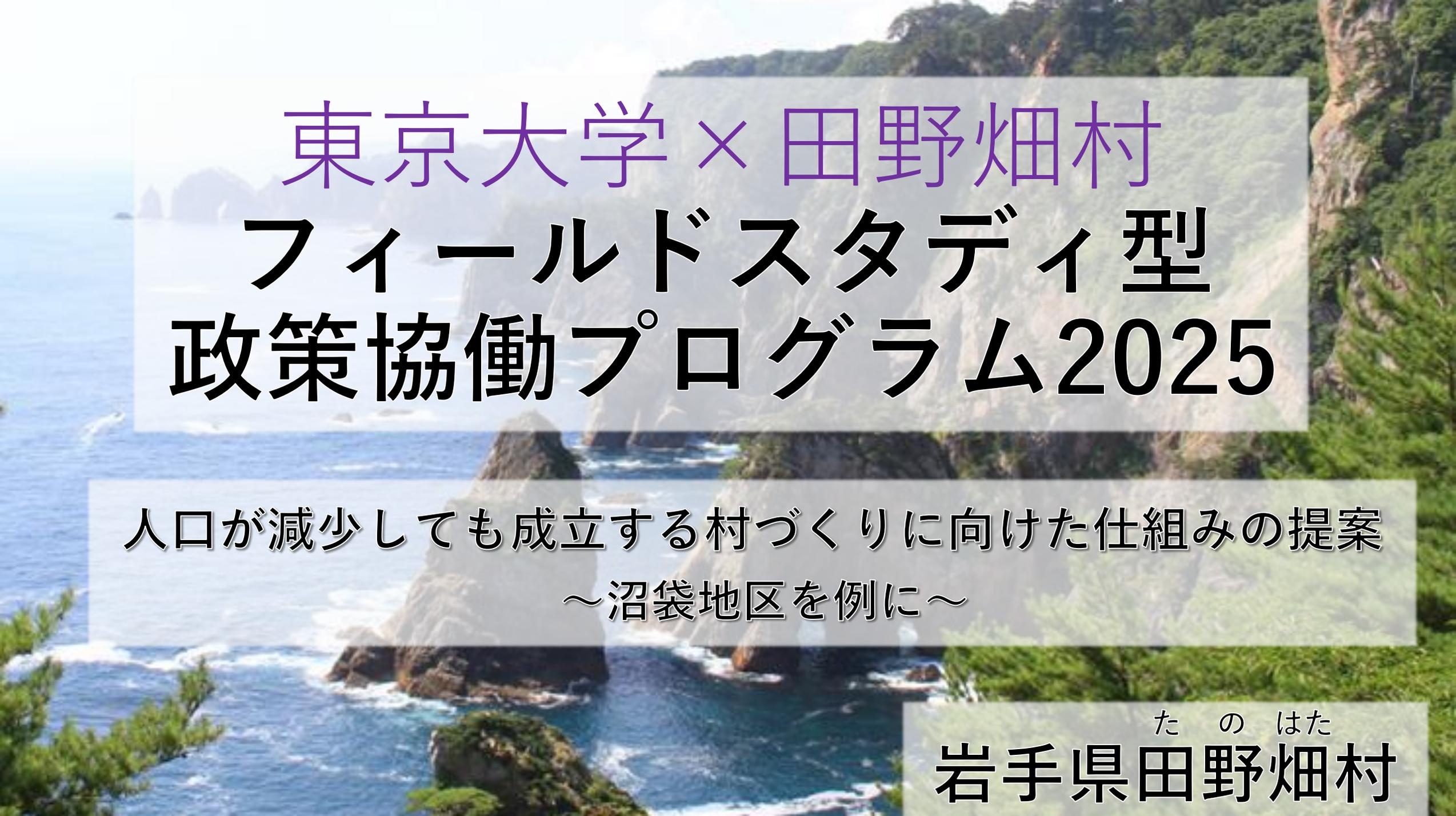
就学前、小中高が一体となって、子供達を育てる仕組みができています

教育委員会、町長部局、各園、各学園(小中学校)、大槌高校、
大槌高校魅力化推進員(NPOカタリバ)、教育関係団体が連携・協働しています

サポーター、左から南SSW、佐藤主任社会福祉士、佐藤医師(東京大学病院こころの発達診療部)

大森教育相談員、照井指導主事、東ことば指導員、金子指導主事





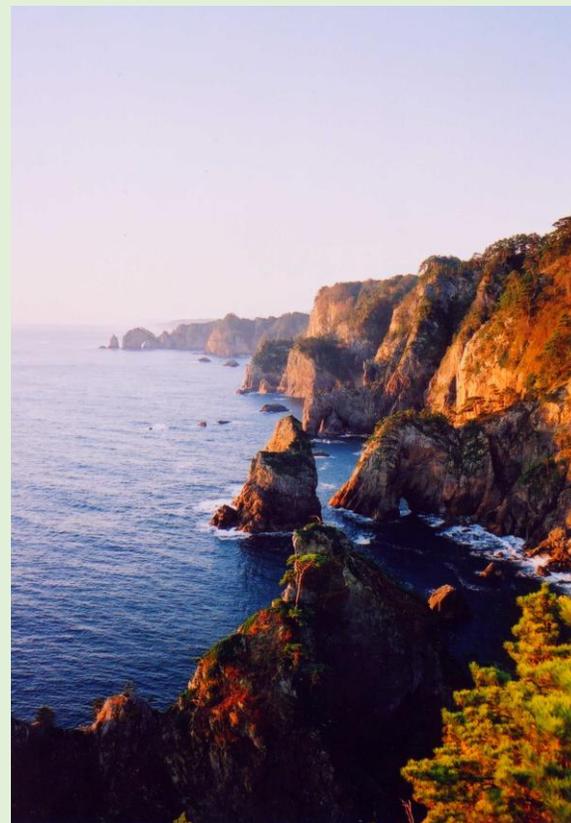
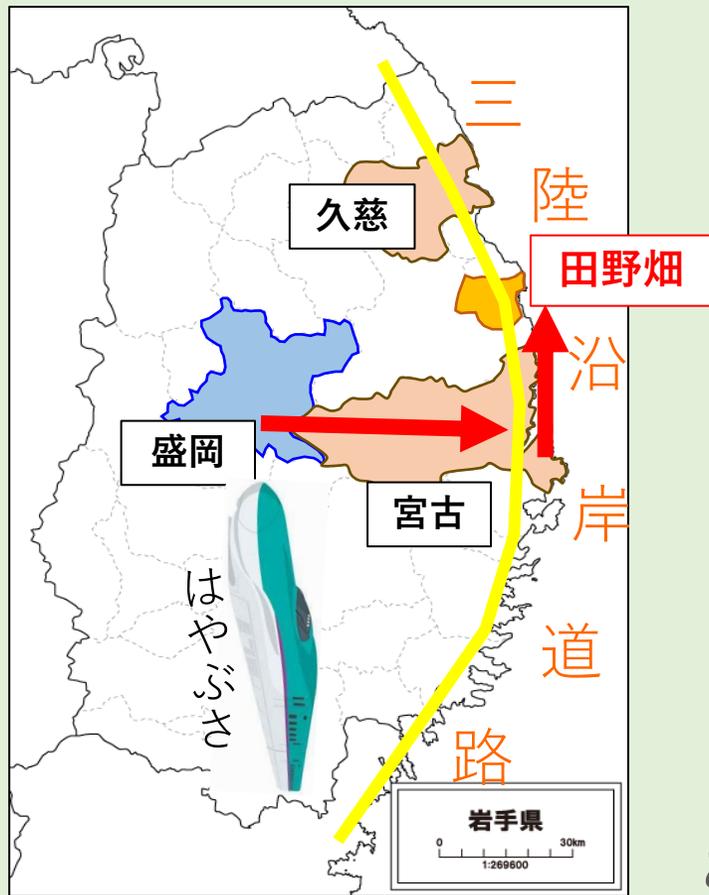
東京大学 × 田野畑村 フィールドスタディ型 政策協働プログラム2025

人口が減少しても成立する村づくりに向けた仕組みの提案
～沼袋地区を例に～

た の は た
岩手県田野畑村

田野畑村って？

東京からは公共交通機関で**5時間**ほど
海と**山**の幸に恵まれた海成段丘の村
ウニ、鮑、ワカメ、松茸、乳製品…



特A級の絶景
北山崎



あまちゃんロケ中の三陸鉄道



サッパ船アドベンチャーズ

田野畑村って？

人口 (R7.3.1)	2,876人 ※ピーク時6,000人超
世帯数 (R7.3.1)	1,328世帯
保育園	1園 (園児49人) ※令和5年4月に2施設を統合
小学校	1校 (児童115人) ※平成21年度末に6校を統合
中学校	1校 (生徒70人)
高校	0校 ※平成23年度末に岩泉高校田野畑校が閉校
主な交通	国道45号線、三陸沿岸道路、村総合バス、三陸鉄道
医療機関	国保田野畑診療所、歯科診療所、民間の歯科医院

南北
14
km



東西17km



三閉伊一揆の発頭村

テーマ

人口が減少しても成立する村づくりに向けた仕組みの提案 ～沼袋地区を例に～

考えていただきたいこと

- ・ 限られた人口で社会活動を**維持**するには…？
（仕組みの例：生業、情報通信手段、交通、
教育、福祉や共助、買い物や流通）
- ・ ”人が減る”と何がどう**困る**？の分析から始めよう

意識していただきたいこと

- ・ 多くの人と関わり、村民の生き様を学びながら社会と自分たちの将来を共に考えていきましょう
- ・ 住民が**誇り**をもって、地域（ふるさと）を大切に思いながら**安心**して**幸せ**に暮らせる提案を期待します
- ・ お堅めのテーマですが…楽しみましょう！



タノくん



たのはた生乳ソフト

沼袋地区って？

かつては村一番の物流、人流の拠点

人口	81人（R7.3.1現在）
世帯数	46世帯（R7.3.1現在）
主な事業者	沼袋郵便局、特養「リアス倶楽部」 田野畑交通、奥地塗装



RIASUCLUB

ヒメボタルや
チョウセン
アカシジミが
生息

甲地鹿踊りの
伝承活動

飲食店や娯楽
施設はない

生涯現役の人
も多いが、
あらゆる
担い手が減少



山には
マツタケ！



車は必須
定期的に
移動販売車も

小中学生11人
はバス通学
高校生もバス
or親の送迎

自治会主導で
草刈りや清掃

獣害の増加
猟師も高齢化

皆さんに期待すること

全国民にとって避けられない課題・・・
誰もが幸せに生を全うできる社会とは？

社会と自分たちの将来を
田野畑で見つめましょう！

TANOHATA

山地酪農を営む「くがねの牧」

山形県高畠町とは

人口 約21,000人

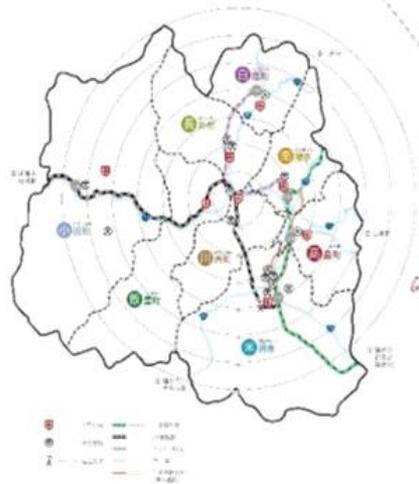
東京駅から新幹線で2時間15分

1973年、近代農業が推奨される時代に地域環境を大切にするため高畠町有機農業研究会を地域の若手農業者が立ち上げた。有機農業の分野では全国でも注目を集め、現在も有機農業水稻栽培面積は山形県内でトップを牽引し続けている。

また、県内でも食品加工業が特出している地域であり、ジャムやドレッシング、ワイン、日本酒などが製造され、全国の百貨店等でも人気のあるものが多い。ここ数年、JR東日本と連携し、海外への販路拡大（輸出）とインバウンド拡大に挑戦している。

近年、町の次世代リーダーを育てる人財育成事業が始まり、県外から住所を異動せずに地域内の学校に転入できるデュアルスクールの導入など、地域内外の人との交流事業が広がっている。

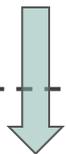
まちづくりは、ひとづくり。面白い人たちが集まり地域を創る。



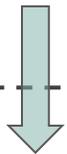
人財育成を軸とした官民協働のまちづくり ～日本一 人を育てるまち～

高畠町は人口減少が進み、2024年に消滅可能性自治体に追加されました。町は行政主導のまちづくりに限界を感じ、町民、企業、行政が協力する新たなアプローチを進めています。「官民協働のまちづくりプラットフォーム」の組織化を見据え、地域課題解決のための起業・創業支援、県外生との交流による小中高連携による町教育の魅力化、子育て支援の3つのプロジェクトを先行的に立ち上げ、官民協働による持続可能なまちづくりを目指しています。

課題
や現状



解決策や
アイデア



取組状況
や成果

- 複雑化する地域課題。行政依存。情報共有や協働を促す町内規模のプラットフォームがない（取組①）
- 経営者の高齢化、後継者不足、既存の仕組みでは他分野連携が起こりにくい（取組②）
- 地域の魅力を知らずに若者が域外に流出、出生率も年々減少し年間100人を切る（取組③）
- 核家族化が加速化し地域内の連携が希薄に。子育てが孤独なものになる危険性が高まる（取組④）

- **行政主導から官民協働のまちづくりへ。プラットフォーム組織化へ。（取組①）**
- **地域社会・産業を牽引する次世代リーダー経営人財の育成事業（取組②）**
- **県外生との交流や大学との連携による高畠町ならではの教育の確立と魅力化（取組③）**
- **地域社会全体で子育てを応援する環境と機運の醸成（取組④）**

- 官民協働のまちづくりプラットフォームの設置により、地域課題・資源の共有化（取組①）
- 町内企業、まちづくりに関わる各団体（商工会、観光協会等）の幹部の若返り化（取組②）
- 地域の魅力の再発見、地域愛の醸成、地方の教育機会較差の解消（取組③）
- 子育て世代を支援するネットワークの構築、子育て世代のライフパフォーマンスの向上（取組④）

デュアルスクール（小中学生）、地域みらい留学（高校生）、地域スタディーツアー（大学生）の実施で、高島ならではの学びに共感した県外生が町に来ることで、地域の子どものとの交流が生まれ、そのことで互いが地域（自分のまち）の魅力の再発見につながる。学年、地域を超えて、町にある暮らしに触れ、「未来の風景」が変わっていく。まちの全てが学びのコンテンツ。

高島町ではデュアルスクールを実施しています。これは都市圏に育つ子どもたちが転校経験が乏しく、地域の学校に馴染めていない制度で、転校生が安心できる環境の構築が目的です。町では転校生を受け入れることを目的に令和5年度から受け入れを実施しています。

「デュアルスクール」は東北では高島町が初の実施となりました。現在、二井南小学校と和田小学校の2校で受け入れを行っています。令和5年度は1家族、令和6年度は家族の受け入れを実施し、計7家族21人の子どもが来町いたしました。

受け入れる側の子どもたちは、新しい人間関係づくりへの理解や、地方と都市の違いや町の良さを再発見する機会を得ることができました。また、デュアルスクール参加の親子が地域活動に参加交流することで、町の良さを知っていただき、高島のファンになっていただくことができていました。

デュアルスクール事業を通じて、関係人口の増加や地域活性化を促し、転居者の増加へつなげていくことが期待されます。

高島町の学びの場をさらに広げよう！

今日からよろしくお付き合いします！

初日は緊張しました...

自然音が心地よい！

みんなで遊んで楽しそう！

まだ「お開きに」来てます！

まだお出迎えに来るね！

高島町の学びの場をさらに広げよう！

字あつくんだよー！いっぱい食べようぞ

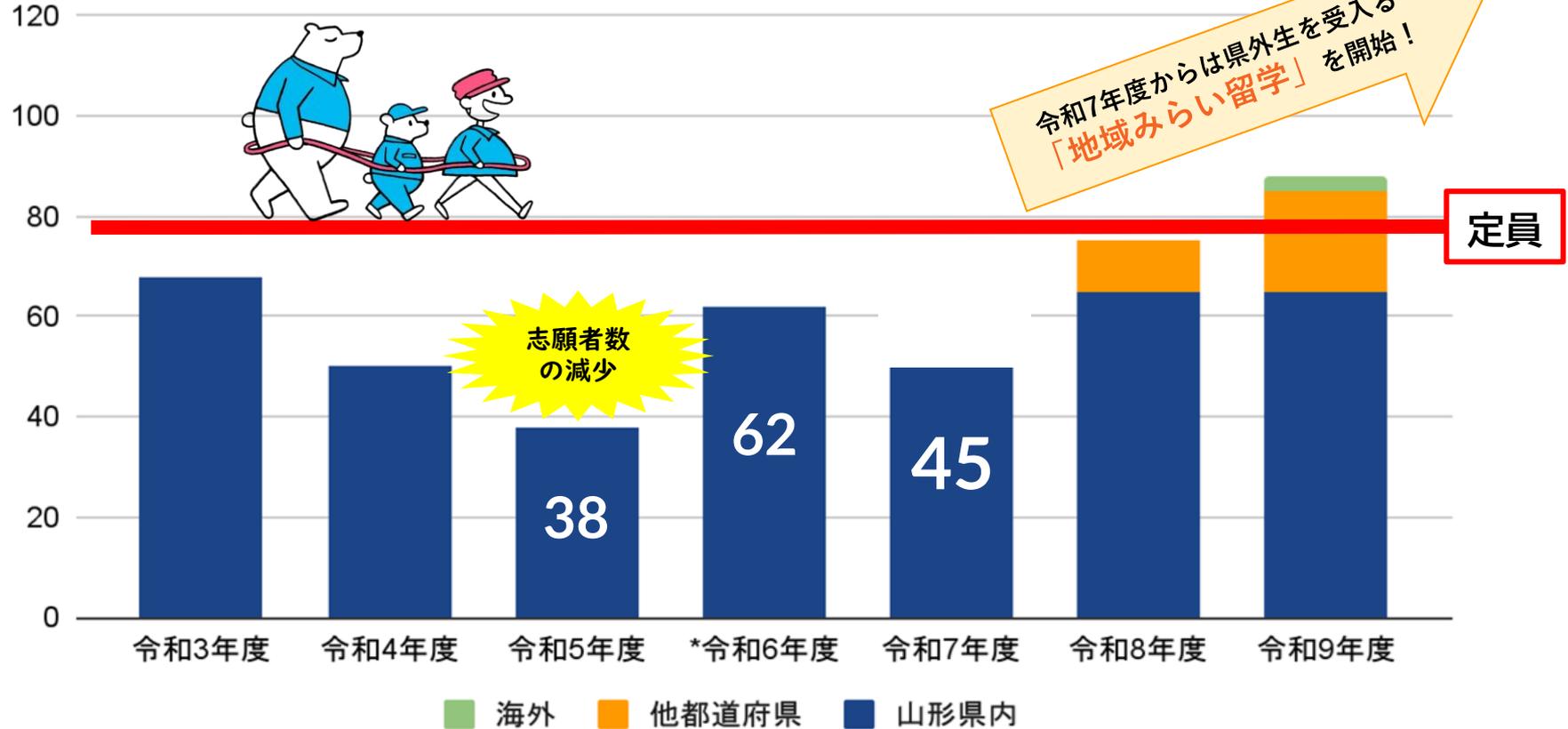
新しい学校のかたち
高島町デュアルスクール

HPはこちら

今後も学校や、地域のみさんにご協力いただきながら、デュアルスクールを継続していく予定です。詳細は町公式ホームページをご覧ください。



高畠高校志願者数



県立高畠高校高畠ゼミ × 東京大学FS で取り組む課題

県外生へ「高畠ならではの学び」の魅力を伝える！



1. まちの教育事業への参加（現地活動）

※地域とつながる学び場創出事業（学校外活動）

※町内の小中高生の連携強化

2. 総合的な探求の学習の時間を活用し、 まちの広報紙や公式SNSで情報発信！

①広報やSNSに載せる内容の選定

②魅力の伝え方を一緒に考える

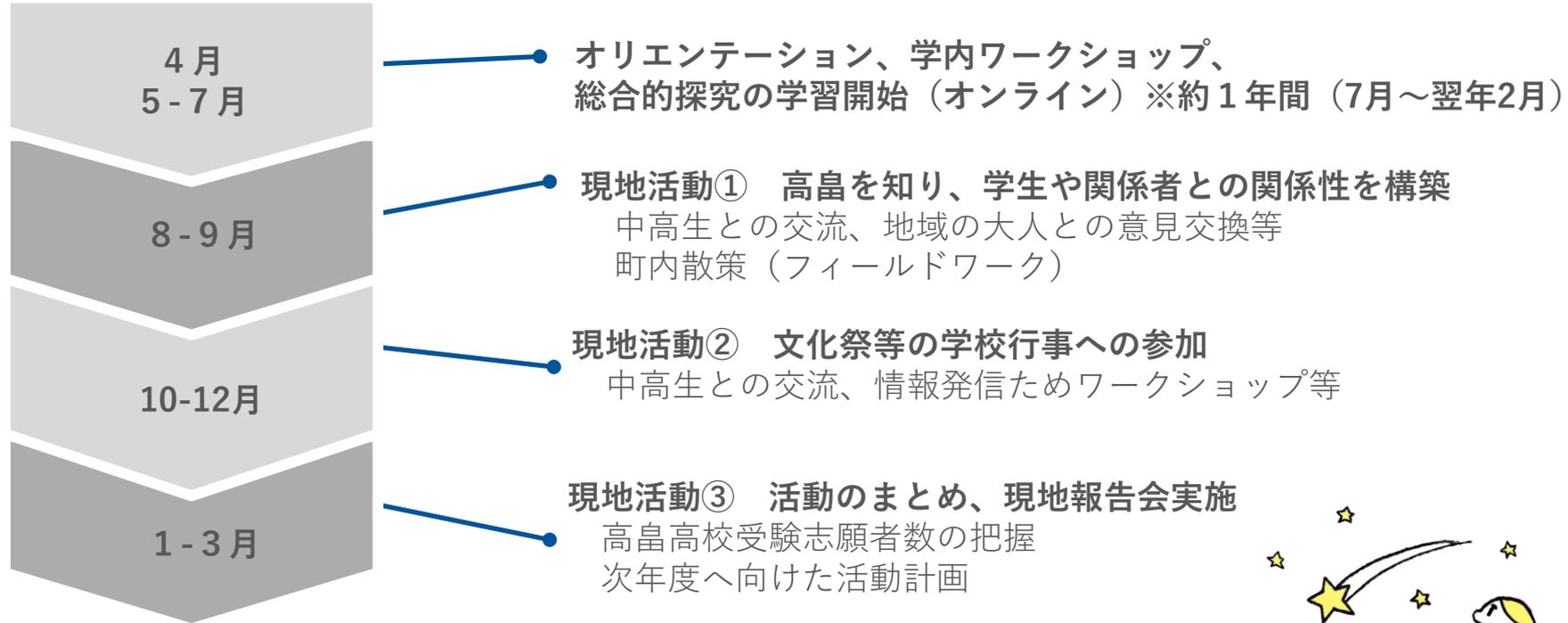
**【注】毎週木曜 14:25-15:15（50分）オンライン授業
現地の高校生と繋ぎ、伴走支援を行います。**

※但し、大学の授業がある場合は、授業優先となります。



高畠高校の町内外、県外の志願者数を増やす！

2025年度東大FS 事業スケジュール（予定）



※関係者（役場、学校、学生）合同定例MTGは、月1程度で開催
※関係者間の連絡は、LINEグループやGoogleチャットを使用する
担当：高畠町企画課 地域活力共創係 鈴木、岡崎



2025年度 フィールドスタディ型政策協働プログラム

空洞化が進む中心市街地活性化

福島県相馬市



相馬市の概要

- ① 東北地方最南端の県で、太平洋側の沿岸部に位置し、降雪も少なく過ごしやすい地域
- ② 人口 : 32,261人 (R7.1.1現在)
37,721人 (H23 東日本大震災前)
約5,500人・14%減少
- ③ 高齢化率 (R5.10.1現在)
・全国 29.0% ・相馬市 32.7%
- ④ 気候
・平均気温 14.8度
・最高気温 36.5度・最低気温 -9.3度
- ⑤ 相馬の美味しいもん
・福とら(トラフグ) ・浜焼き
・あおさ ・そうま梨 ・いちご狩り



中心市街地の現状と課題

商店の閉店

後継者不足や郊外型大型店舗、オンラインショッピングの普及により、多くの商店が閉店し、街中の活気が失われている。

人口減少と高齢化

若者が都市部へ流出し、人口が減少する一方で高齢化が進んでいる。これにより、消費者が減少し地域経済も縮小している。

災害の影響

2011年の東日本大震災や近年の大雨・地震災害により多くの建物が取り壊され、復興が進む一方で空洞化が進行している。



中心市街地活性化の取り組み

①空き店舗対策の推進

相馬商工会議所や商栄会と連携し、空き店舗の状況把握と活用について検討している。

②イベント等に対する支援

中心市街地活性化に繋がるイベント等の取り組みに対し、相馬商工会議所を通して支援している。

③まちなか賑わい創出事業

相馬商工会議所を中心に、「食べ歩きスタンプラリー」
「得するクーポン券の配布」・「プレミアム商品券事業」などを開催

みなさんに取り組んでいただきたいこと

見 る

中心市街地の現状を実際に目で見て、課題解決に向け考える材料の一つとしていただきたい

聞 く

商店会や商工会議所青年部、行政区長等と意見交換をし、直面している問題等について直接聞いていただきたい

提 案

見て・聞いて得た情報を基に研究し、「活性化のための具体的なプラン」・「人を呼び込むための方策や支援策」など魅力的なアイデアを提案いただきたい



スケジュール

6月中

オンラインミーティング

8月～9月

現地活動 ①

11月～12月

現地活動 ②

3月中旬

現地報告会



豊かな観光資源を活かしたにぎわい創出



棚倉町シンボルキャラクター
「たなちゃん」

福島県
たなぐら
棚倉町

国指定史跡「棚倉城跡」

福島県棚倉町とは？

人口：約13,000人

東京駅から新幹線と路線バスで2時間15分
福島・茨城・栃木の三県にまたがる標高
1,022mの八溝山を中心とする奥久慈の豊か
で美しい自然に恵まれた城下町です。

江戸時代には、丹羽長重公が棚倉城を築
城して以来、棚倉藩十万石の城下町として、
政治・経済・文化の中心地、交通の要所と
して繁栄しました。令和7年に築城400年を
迎えました。



J Rバス白棚線



J R水郡線

棚倉町の観光における特徴

- ◆豊かな自然環境
- ◆豊富な歴史資源・文化資源
- ◆特色ある農産物



棚倉町の観光振興の取り組み

「第7次棚倉町振興計画」より

- ・ 観光協会の運営支援
- ・ 歴まち計画に基づく観光関連施設の整備
- ・ 地域特性を生かした体験型・滞在型観光の推進
- ・ 観光案内機能の強化
- ・ タウンプロモーションの推進

観光立国推進基本計画（第4次）概要から

基本的な方針

持続可能な観光地域づくり戦略

- 観光振興が**地域社会・経済に好循環**を生む仕組みづくりを推進する
- 観光産業の**収益力・生産性を向上**させ、**従事者の待遇改善**にもつなげる（「稼げる産業・稼げる地域」）
- **地域住民の理解**を得ながら、地域の**自然、文化の保全と観光を両立**させる（「住んでよし、訪れてよし」）

今後の棚倉町の観光振興のための視点



視点①
持続可能な観光

視点②
町民が育て、多様な交流が生まれる観光

視点③
新時代に対応した観光

学生さんに期待すること

令和6年度に提案された観光ルート
の検証とブラッシュアップ

観光コンテンツの洗い出しと整理

既存観光資源のブラッシュアップの方法や展開等についての提案

観光拠点施設のコンセプトと基本的な考え方についての提案

棚倉町の観光地域づくりに活かす

事業スケジュール

6～8月 第1回現地活動

8～11月 第2回現地活動

1～3月 第3回現地活動

現地報告会



東京大学フィールドスタディ型政策協働プログラム

地域資源の可視化ツール 制作プロジェクト

一般社団法人 新島エリアマネジメント

【新島村について】

新島

人口：1,936名^(R7.2月)

保育園・小中高校1校ずつ

高齢化率41%^(R5.2月)

診療所1軒

くさや / コーガ石 / 新島ガラス / 温泉

式根島

人口：462名^(R7.2月)

保育園・小中学校1校ずつ

高齢化率44%^(R5.2月)

診療所1軒

リアス式海岸 / 温泉 / ワークーション



NIIJIMA AREA
MANAGEMENT

 東海汽船
大型船 竹芝～
8h30min

 東海汽船
高速船各船 竹芝～
2h30min

 新中央航空
ドルニエ 調布～
35min

 神新汽船
あぜりあ 下田～
3h

新島

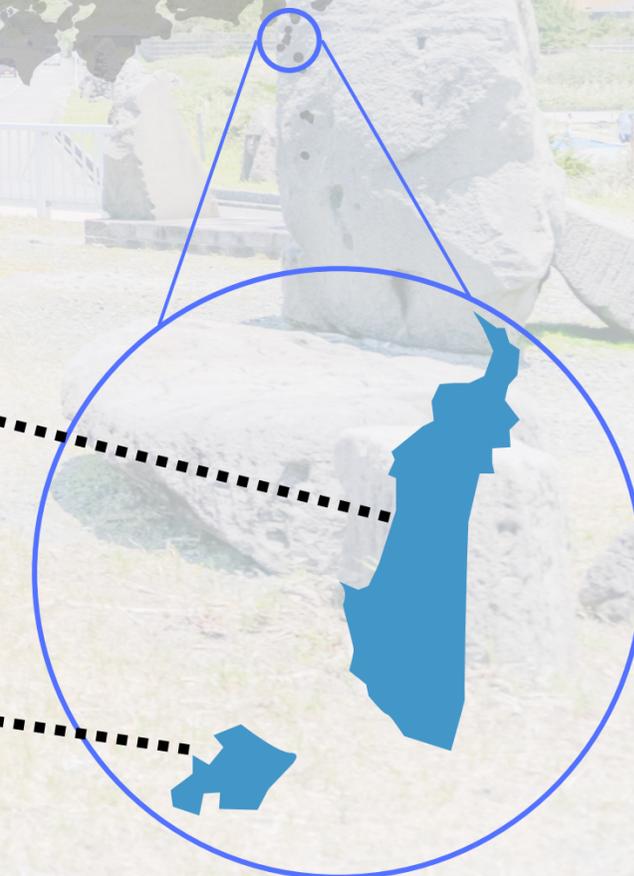
周囲約41.6km

面積約23.85km²

式根島

周囲約12.2km

面積約3.67km²



【課題背景】

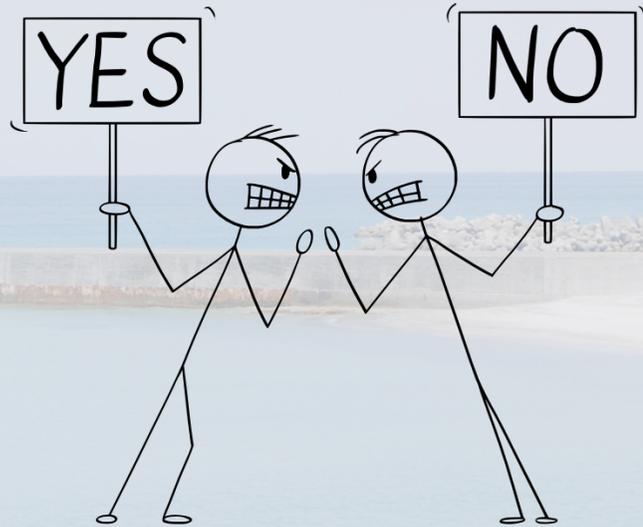


NIJIMA AREA
MANAGEMENT

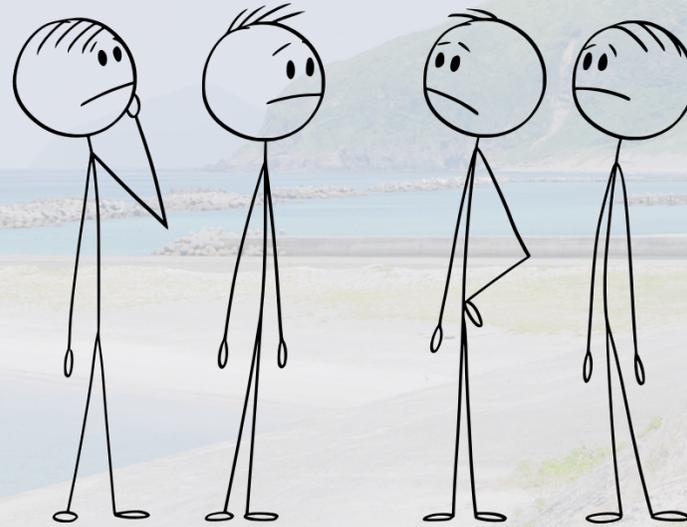
地域には価値ある資源が多数存在するが、誰もそれを体系的に整理できておらず、
地域資源を十分に可視化できていない。

地域資源が可視化されていないことで、地域についての議論が行われる際に、
など、下記のような展開になってしまう現状がある。

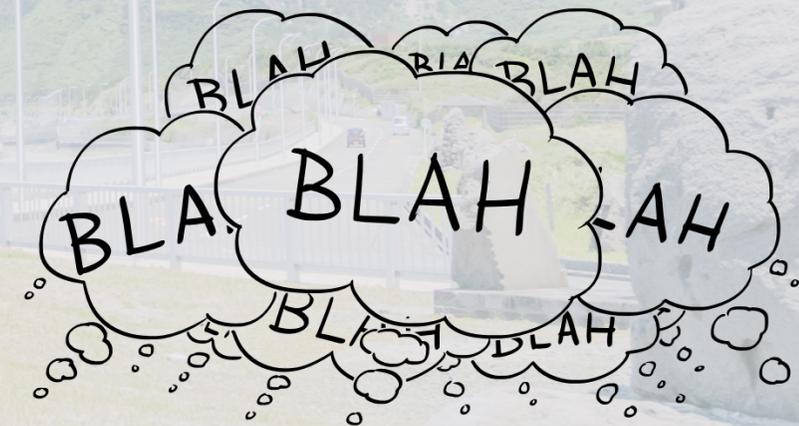
会議が主観の
ぶつけ合いになってしまう



ステークホルダーたちの所属の
壁が越えられず議論が進まない



空中戦の議論が展開され
進展が少ない



対話が促進されるようなツールを開発し、地域の各団体が議論や施策の場で役立てることを目指す。
新島において、多様な立場の人々が共通の認識を持ち、
同じ視点で考えることができる環境を整え、地域資源の価値を最大化を共に目指せる場づくりを行う。

【可視化ツール『資源カード』】



NIIJIMA AREA
MANAGEMENT

地域に存在する資源（食べ物、文化、自然、人、動物など）を洗い出し、
その特徴や課題を整理しながら、写真付きの「資源カード」として1枚ずつまとめる。

資源カードを制作することをゴールとし、制作プロセスを学生たちと協働し実施していくことを考えている。



レア度：★★★★

食材
大島

『めっかり（くぼがい）』

伊豆大島の磯場でよくとれる貝である「めっかり」はいわゆる地方名。特に夏場の磯でよく取れます。（「めっかり」は漁業権対象となっている為、漁業協同組合員以外の一般の人とはとることはできません）

小型の巻貝で、中の身を取り出すには爪楊枝などで、クルクルと上手に取り出して食べる。比較的小さな貝類だが、磯の旨みをふんだんに含んでいる。



冷蔵技術のない時代の保存食文化として、魚を醤油（塩分）に漬けて保存する方法があった。その漬けた魚を寿司にしたものが島寿司。その中でも伊豆大島では、ワサビは使わず、漬液自体に青唐辛子を使い漬け込みます。その黄金色のネタの色から、伊豆大島では「べっこう寿司」と呼ばれ、郷土料理として親しまれています。その他の島では、島唐辛子は使わず、わさびの代わりに洋がらしを使います。

見込まれる成果

- ① 地域の多様な資源の全体像を把握できる。
- ② 「資源カード」は、地域の施策やイベント、教育に活用可能なツールとなる。
- ③ 若者視点からの新しい発見が、地域に新たな価値を提供するきっかけになる。

活用するターゲット

エリアマネジメント関係者、
行政職員、教育機関、外部機関などを含む
島民および関係人口とする。

活用シチュエーションのイメージは
エリアマネジメント×島民や外部機関
行政や民間企業など各団体でのディスカッション
新島高校での探究授業

など。

【参加学生の皆様へ】



NIIJIMA AREA
MANAGEMENT

資源カードの完成に向けて、学生に期待するのは、
カードの構成やデザイン、制作プロセス、盛り込む内容等について、
学生ならではの気付きや自由な発想、得意な能力等を発揮してもらうことです。

【利用者目線での制作】

単にカードを作成するだけでなく、
デザインや情報の見やすさ
分かりやすさを重視し、
利用者が活用しやすい形で
制作すること。



【創造的な提案】

資源の洗い出しを通じて、
「資源の掛け算」や
「足し算」のような
新しい組み合わせや
アイデアを提案すること。



【Web上での活用】

資源カード+αの表現方法として、
可視化した地域資源をWeb上で
展開し、地域内の機関だけでなく、
島外の人にも届くような発信(メディア・SNS)など。



【AIを活用した発想】

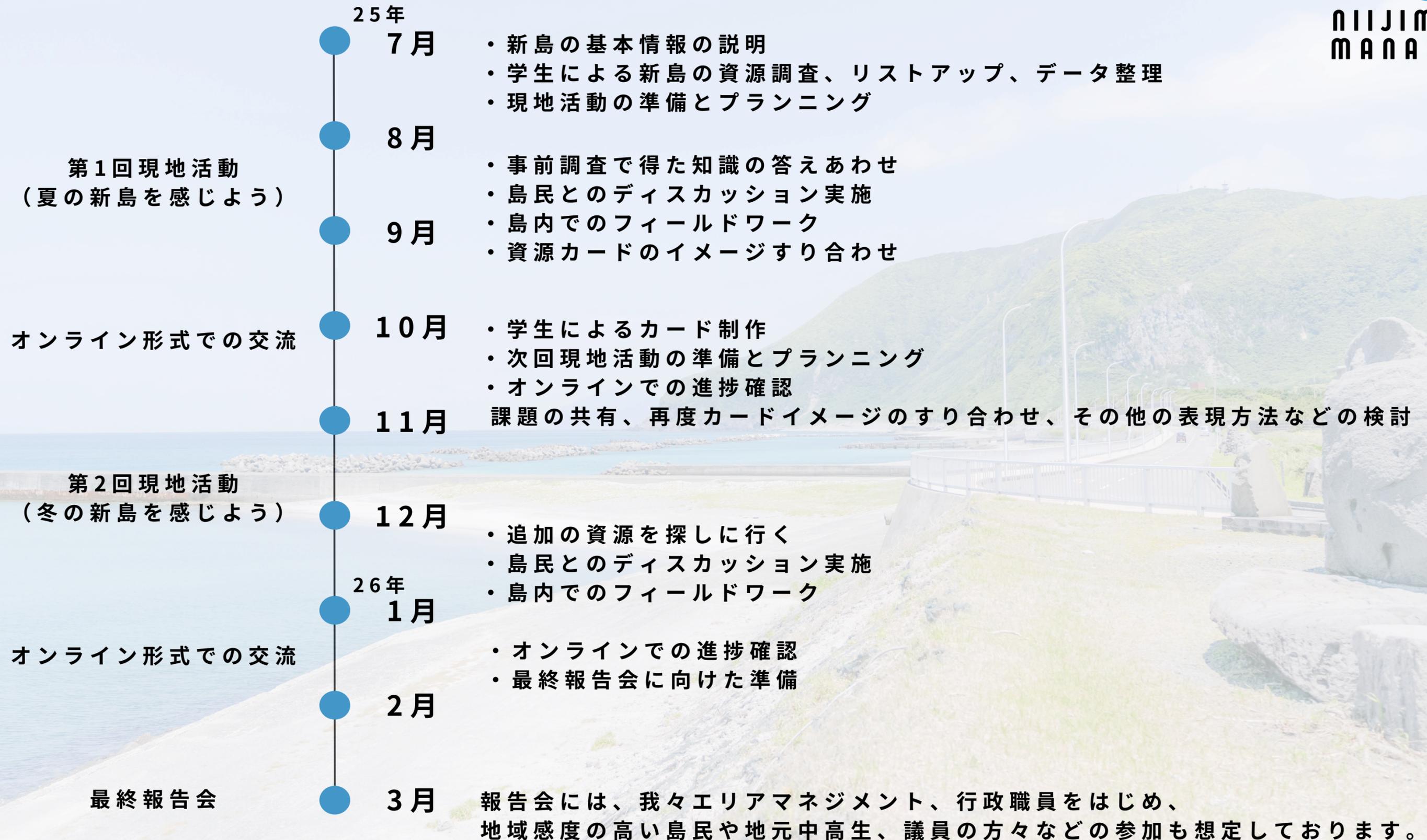
若者らしい柔軟で
フレッシュな発想で、
AIを活用した新しい取り組みや
アイデアを提案すること。



資源カードをゴールとしつつも、表現の仕方については学生の創意工夫を尊重し、
受け入れ側としても、柔軟に対応できる環境を整えていきます。

早い段階でカード制作が纏まった際には
地域住民とのフィールドワークの実施なども検討しております。実際の使用感や改善点を見つけたり、
単なるカード制作にとどまらず、地域の未来に繋がる価値を生み出してほしいと期待しています。

【スケジュール】



富山県氷見市



持続可能な里山生活を守るべく、「コミュニティ」の再構築と、「稼ぐ地域づくり」への転換を図る

氷見市地域振興課 速川地区まちづくり協議会

富山県氷見市とは



人口:約4万人

面積:230.54km²

富山県の北西部、石川県に隣接



「寒ブリ」をはじめとする海の幸だけでなく、
氷見牛や農作物、里山の恵みも豊富で、
獅子舞を代表とする伝統芸能も盛ん



速川地区とRMO



今回皆さんを受け入れる速川地区は、氷見市の西部地区に位置する人口約1,000人の中山間地域です。

「速川地区まちづくり協議会」を中心に、関係人口創出に向けた地区の魅力を知れる様々なイベント開催や、地域住民が暮らしやすいまちづくりにむけた施策を行っています。



話し合いの様子



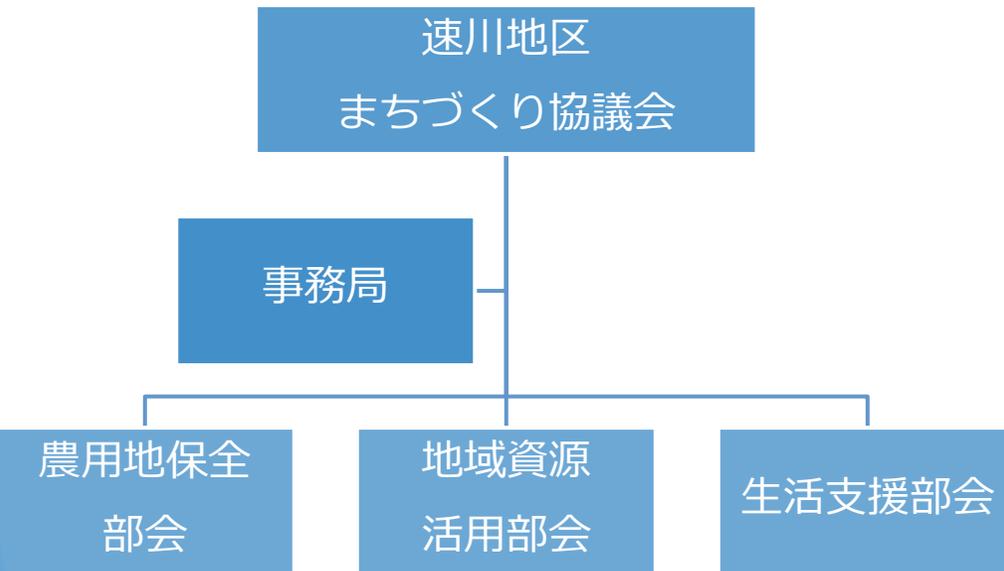
学生へ向けた農作業体験の実施

現在、農林水産省の「農村型地域運営組織（農村RMO）」の「モデル形成支援地域」に選定され、持続可能な地域にむけ、補助を活用して令和5年度から実証実験を行っています。

「農村型地域運営組織（農村RMO）」とは、複数の集落の機能を補完して、農用地保全活動や農業を核とした経済活動と併せて、生活支援等地域コミュニティの維持に資する取組を行う組織のこと。

実証実験の活動内容

RMOの組織



・これまでの取り組み例

地域資源活用部会

- 関係人口創出に向けた交流イベント等の開催
 - ・地域内の廃校舎を活用し、様々な地域特産品を販売する「里山マルシェ」の開催。



生活支援部会

- 住民が暮らしやすいまちづくり
 - ・地域の人口減少に対応するため、連絡手段の効率化・自治会事務の負担軽減対策としてスマホ教室の定期開催。



速川地区まちづくり協議会HP <https://himi-hayakawa.com>

農村コミュニティのメリット（住民同士の関わりの深さ、意思決定の速さ）をフルに活用することで、今後の課題（地域内の人口減少・高齢化）に対応できる、持続可能な地域運営の基盤づくりを行っています。

見えてきた課題、お願いしたいこと

「農村RMO」の取組みを進める中で、次の課題が浮き彫りに・・・

- ①地区内の世代交代ができていない
- ②地区外との交流が少ない
- ③地域内での情報の共有が不足している
- ④地域内での各種資源の有効活用ができていない（稼げていない）



特に・・・

- 地区内の住人の半数以上が高齢者で、30～40代の若い世代の地区行事参加もコロナ禍以降激減。地区内での**コミュニティの再構築**（世代間交流のできる場所、イベント、仕組みの整備など）が必須
- 地域での稼げる仕組みを上げる**こと（特産物の増産、加工品の開発など）が、持続可能な里山の暮らしを守ることに繋がり、速川地区が存続していくために重要



そこで・・・

○今回お願いしたい提案のテーマ

- ①**コミュニティの再構築** ②**稼げる地域づくり**

2つの課題解決どちらかにつながればテーマは自由です。
もちろん複数提案も大歓迎！

- 「**ヨソモノ・ワカモノ目線**」での学生の自由な発想を地域に落とし込み、現在実施している「農村RMO」の実証実験の中にその新たなアイデアや視点を組み込んでいきたい！

想定スケジュール

6月：	オンラインミーティング1回目 ○顔合わせ、地域の現状や課題の共有
7月初旬：	オンラインミーティング2回目 ○課題解決方針と現地活動内容調整
8月後半～ 9月中旬	現地活動1回目 ○速川地区を実際に知ってもらう、 地域活性化のキーワード探し
10月中旬	オンラインミーティング3回目 ○現地活動2回目の検討
12月	現地活動2回目 ○速川ふれあい祭への参加（模擬店出店も可） 解決アクションの試行
1月	オンラインミーティング（4回目） ○活動内容振り返り
2月	現地報告会

（体験活動イメージ）

○農産物の収穫体験

⇒特産のサツマイモ、イチジク、ハーブ、メロンなどの収穫体験と、稼げる農業にするため問題点探し、住民へのインタビュー

○秋祭りの獅子舞参加

⇒伝統行事をどう後世に残せるか、コミュニティの場として生かせないか

○地区内観光マップの検討

⇒大伴家持にゆかりのある地区内スポットを、自転車でめぐり体験を行い、地区内観光マップの参考に

- 現地活動1回目は速川地区について幅広く知っていただき、2回目は提案のテーマに沿った体験に調整できればと考えています
- 地区の人柄や風土に触れていただくことを大切にしていきます。終了後も交流人口として、速川地区と繋がってもらえるととても嬉しいです。



地域資源を活用した
交流人口の増加と移住・定住への展開



富山県富山市細入地域

富山市細入中核型地区センター

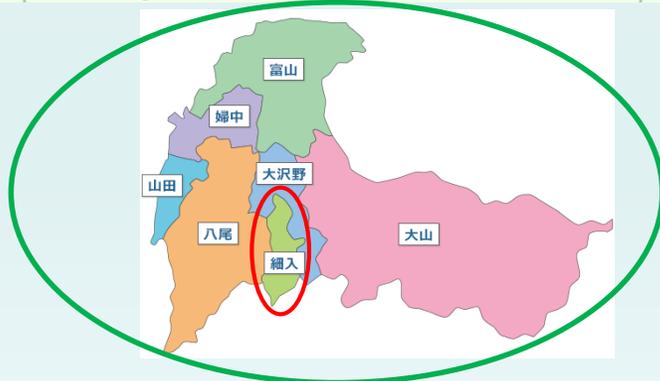
細入地域の概要

☆細入地域は、平成17年4月1日に1市4町2村が合併した新富山市の旧細入村がエリアです

★人口 口：1,085人
★高齢化率：46.8%
★面積：40.24km²

★世帯数：487世帯
★自治会数（集落数）：10地区

※人口、世帯数、高齢化率、自治会数は令和7年1月末時点



細入地域は、神通川の上流、富山県の最南部に位置し、岐阜県飛騨市に接する自然に恵まれた神通峡の里として知られています。

東西約5km、南北約15kmと南北に細長く、西は700～1,100mの山々、東は神通川に挟まれた神通川沿いに集落が点在する中山間地域です。



細入地域の主な観光施設

●神通峡岩稲温泉「楽今日館（らっきょうかん）」



- ★平成8年4月オープン
平成11年11月宿泊棟オープン
- ★神通峡のほとりで、温泉と食事、宴会休憩、宿泊、売店施設を備え、日帰りでも、泊りでも楽しめます。

●割山森林公園「天湖森（てんこもり）」



- ★平成11年4月オープン
令和6年6月リニューアルオープン
- ★総面積14haの大ロケーションの中にオートキャンプ、フリーキャンプ、ログハウス、コテージ、グランピング、パークゴルフ、バーベキュー、釣り、展望台、天体観測棟などアウトドアが満喫できます。

●道の駅細入「林林（りんりん）」



- ★平成5年4月オープン
平成6年4月「道の駅細入」開駅
- ★飛越の特産品・グルメ販売。敷地内の新設公園では、アスレチック、アストロゲレンデなどが楽しめます

●猪谷関所館

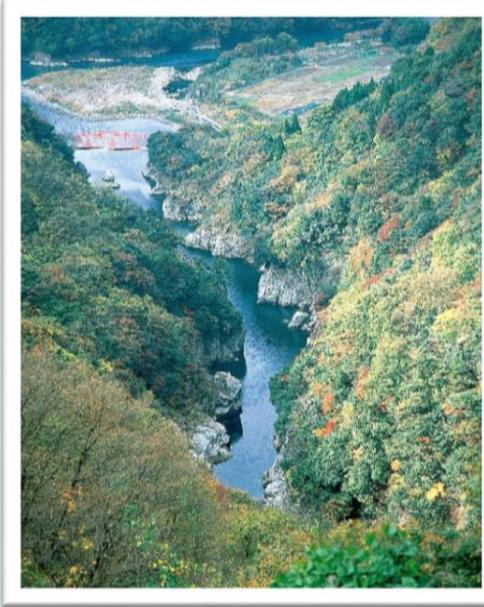


- ★昭和63年（1988年）4月開館
- ★越中と飛騨を結ぶ飛騨街道の要所に置かれた富山藩西猪谷関所は、寛永18年（1641年）に開関し、明治4年（1871年）に廃関されるまでの約230年間存在した。関所に残された文書・武具用具を展示し廃村の神社にあった円空仏も一般公開しています。

細入地域の主な観光スポット

●神通峡 大自然がおりなす渓谷と清流のシンフォニーが美しい風景をかもしだしています

★庵谷峠からの眺望



★常虹(とこにじ)の滝



★観光橋

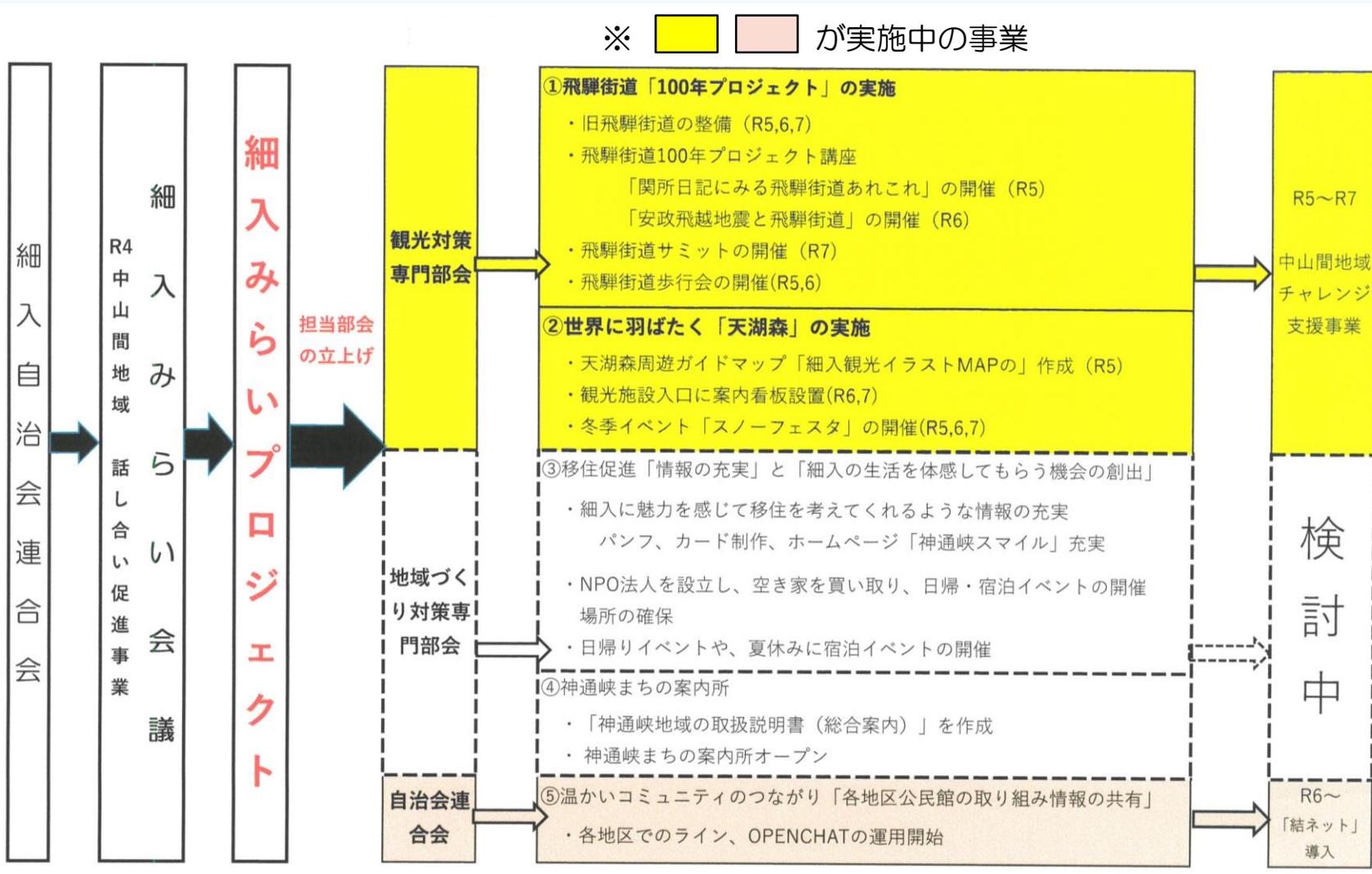


★ダム湖の清流と漕艇場



地域の衰退に歯止めをかけ、移住・定住に向けて「細入みらい会議」を開催

細入地域の10自治会の代表者等で組織する「細入自治会連合会」は、令和4年度に各年代、各団体代表など総勢28人が集まり、細入地域の「将来こうありたい」理想の未来像について話し合う「細入みらい会議」を開催し、地域の衰退に歯止めをかける未来の村づくりアクションプラン「細入みらいプロジェクト」を作成しました。プランの内容の一部は、令和5年～7年度の3か年、県補助事業の採択を受け実践中です。



FSプログラムで★今後の課題についての提案をお願いします

★今後の課題

地域資源を活用したイベントの開催や観光マップ作成などにより、地域の魅力を紹介して交流人口の増加を図っていますが、「移住・定住」への展開につなげる方策が見えてきません。

つきましては、紹介した観光施設やイベントと以下の3つのアイテムを活用した「移住・定住」への展開につなげる方策の提案をお願いします。

- 廃止が決まっている富山市所有の「古民家」
- 空き家・空地
- 自治会連合会の管理するホームページ「神通峡すまいる」

FSプログラムのスケジュール(案)

[6月中]
★オンラインMTG

- 顔合わせ
- 地域資源と地域の取り組み紹介と課題の共有



[7月下旬～8月]
★現地活動1回目
(2泊3日)

- 地域内を巡り観光施設や活用したい古民家や空き家等を案内
- 部会メンバーと顔合わせ、部会活動の紹介と交流会の開催
(日程が合えばイベントに参加と企画メンバーとの交流)



[11月1日～2日]
★現地活動2回目
(1泊2日)

- 秋の観光スポットを巡り地域の案内
- 地域住民イベント「第50回細入まつり」に参加して地域住民と交流(東大FS特設ブース設置)※日程が合わない時は、別イベント参加も検討。



[2月28日～3月1日]
★現地報告会
(1泊2日)

- 提言内容の最終整理報告会のリハーサル
- 報告会の開催
(細入公民館にて)

ご清聴ありがとうございました “よろしくをお願いします！”

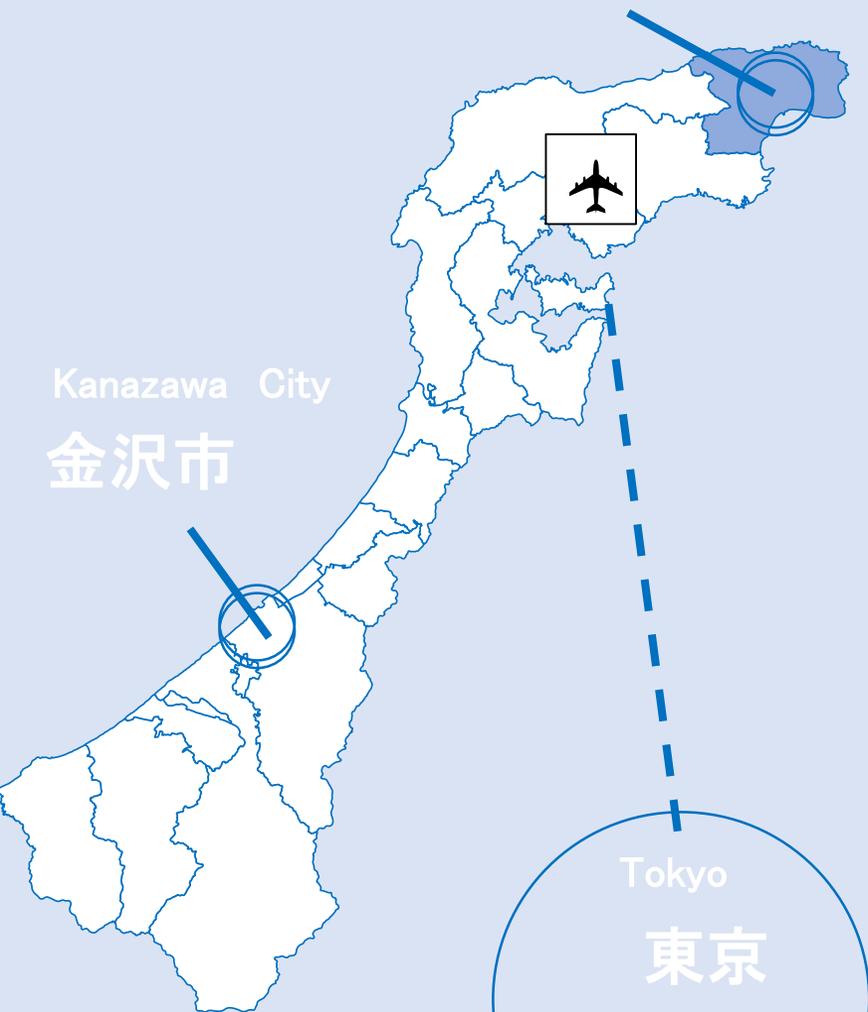
SUZU CITY 珠洲市

子どもたちが思い描く
「珠洲のみらい」を表現しよう



SUZU CITY

珠洲市



総人口

Population

約**11,232**人

※2月28日時点

行き方

Access



東京↔能登

Tokyo Noto

約**1**時間



金沢↔珠洲

Kanazawa Suzu

約**2.5**時間

世界農業遺産 (GIAHS)

里山・里海

SATOYAMA

SATOUMI

ホンモノの田舎、昔ながらの暮らし。



奥能登国際芸術祭

OKU-NOTO TORRIENALE

2023年参加アーティスト59組

来場者 約**51,100**人



背景と現状

昨年、本市は震災と豪雨災害に見舞われた。震災以降、本市を離れる子育て世代は多く、人口減少と高齢化が加速している。今後、「こどもまんなか」のまちづくりをしなければ、子育て世代がさらに減り、本市は衰退の一途を辿るだろう。一方、珠洲市に残り奮闘する家族もいて、子どもたちは震災前と同じように学校に通い青春時代を過ごしている。

子どもたちは「珠洲のみらい」について、いま何を思い描いているのだろうか。こんなこといいな、できたらいいなと子どもたちが考える未来を、本市における未来シナリオの一つと捉え、復興事業の参考にしたい。



令和6年能登半島地震



令和6年奥能登豪雨

これまでの取組み事例

1) 復興計画策定に関する取組み

小中学生を対象に「珠洲の未来を考えるワークショップ」を開催。
高校生が復興計画策定委員会に参画。

2) 平時からの取組み

小中学生は「親子議会」やSDGs学習(総合の授業)により珠洲市や、まちの未来について考える機会がある。また高校生は「ゆめかなプロジェクト(探究学習)」で個人やグループで興味・関心のあるテーマ(問い)を探究する機会がある。



珠洲市復興計画



ゆめかなプロジェクト

テーマと課題

テーマ

子どもたちが思い描く「珠洲のみらい」を表現しよう

課題

子どもたちが思い描く「珠洲のみらい」について・・・

- ・ 子どもの意見が分からない。(とくに高校生)
- ・ 可視化できていない。
- ・ 世の中に発信できていない。

大学生に取り組んでほしいこと

- ・ **子どもの意見を調査しよう。**

これまで本市が行った取組みを材料として活用し、整理、追加調査など深掘りしてほしい。

- ・ **未来シナリオ(仮)をつくろう。**

子どもたちが思い描く未来を可視化してほしい。

- ・ **未来シナリオ(仮)を表現しよう。**

制作した未来シナリオの表現方法を考え、発信してほしい。(例)記事、冊子(Web・紙)、展示、映像…等

実施スケジュール

6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

リアル

・ 現地活動①
(3泊4日)

・ 現地活動②
(2泊3日)

・ 交流イベント開催
(東京)

・ 現地報告会

オンライン

- ・ 顔合わせ
- ・ 活動計画

- ・ 事前調査
- ・ 情報整理、編集
- ・ 未来シナリオづくり(仮)

- ・ 追加調査
- ・ 情報整理、編集

- ・ 追加調査
- ・ 情報整理、編集
- ・ イベント企画、準備

- ・ 報告会準備

珠洲までの移動手段について

移動手段	行き	帰り	費用（片道）
電車 バス 	新幹線かバスで金沢へ 07:15 金沢駅西口発 09:38 のと里山空港着（乗換） 10:57 珠洲市役所前着	16:38 珠洲市役所発 17:28 のと里山空港着（乗換） 20:13 金沢駅西口発 新幹線かバスで東京へ	東京⇄金沢 新幹線：約15,000円 夜行バス：約4,000円～ 金沢⇄珠洲 特急バス：2,730円
飛行機 	08:55 羽田空港発 09:50 能登空港着 ふるとタクシーで珠洲へ	ふるさとタクシーで能登空港へ 16:45 能登空港発 17:50 羽田空港着	羽田空港⇄能登空港 飛行機：約10,000円～15,000円 能登空港⇄珠洲 ふるさとタクシー：1,300円

現地活動における注意事項

- **安全第一で行動しよう**
 ※悪路だったり、倒壊した家屋があったりと危険です。全員ケガなく、病気なく帰ろう。
- **災害が発生した場合に備えて**
 ※活動時に災害が発生した場合は落ち着いて行動しよう。
 その時の環境によって対応が異なるため、あらかじめ想定しておこう。

 **安全第一**



半島のさいはてで
わくわくする未来を
創ろう

SUZU CITY
珠洲市

お問合せ

珠洲市企画財政課 移住定住推進係
☎ 0768-82-7726 ☒ iju@city.suzu.lg.jp

能美スマートインクルーシブシティの推進



デジタル公民館の
魅力発見・発信プロジェクト



石川県 のみし
能美市



能美市の概要



- ◎日本海、白山丘陵、手取川扇状地の豊かな自然を有する
田園都市 『面積84.14km²』 海～里山まで 森林は6割
- ◎人口 49,673人 (R7.3.1現在) 外国人比率県内1位
- ◎世帯数 20,346世帯 (R7.3.1現在)
- ◎金沢市より約15km (車で約20分：通勤圏内)
- ◎企業の集積エリア (加賀東芝・東レ等)
- ◎北陸先端科学技術大学院大学 (JAIST)
- ◎伝統工芸九谷焼の郷『九谷陶芸村・茶碗祭り』
- ◎開湯千4百年の歴史を誇る『辰口温泉』
- ◎県内唯一『いしかわ動物園』



～能美スマートインクルーシブシティ構想～

＊令和4年度スタート

背景・
課題
対応
方針
解決
施策

- ・海から山まで地理的に多様で、**移動（人流・物流）が非効率**
- ・中心街がなく生活機能が分散しており、移動には車を欠かすことができず、孤立のリスクが高い

- ① **オンライン医療や買い物支援、ライドシェア等、移動が少なくても暮らし続けることができる仕組みづくり**（デジタル）
- ② **データ連携・活用による人流・物流・商流の最適化・暮らしと社会の高度化**（データ利活用）
- ③ **コミュニティサポーターによる全世代への市民力強化促進・Well-beingな（心身ともに満たされた）暮らしづくり**（市民力）

実現する姿

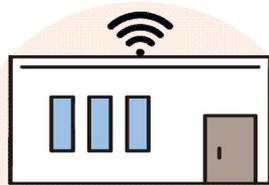
デジタル技術と市民力による、誰一人とり残されないスマートであたたかな能美市

デジタル技術（手段）

① 移動を最小限にして暮らし続けられる仕組み



生活支援サービス
＊買い物支援など



デジタル公民館
(町会・町内会)
令和5年度～



オンライン診療



オンライン
健康教室や
行政サービス等



モビリティ拠点

② データを活用する仕組みづくり：生活の質の向上

持続可能な市民力の強化

様々な世代の人とのつながりを通じて「**地域の
ために何かやりたい!**」市民をたくさん見つけ、
活動できる仕掛け。



デジタル公民館に
おけるデジタルサ
ポートなど



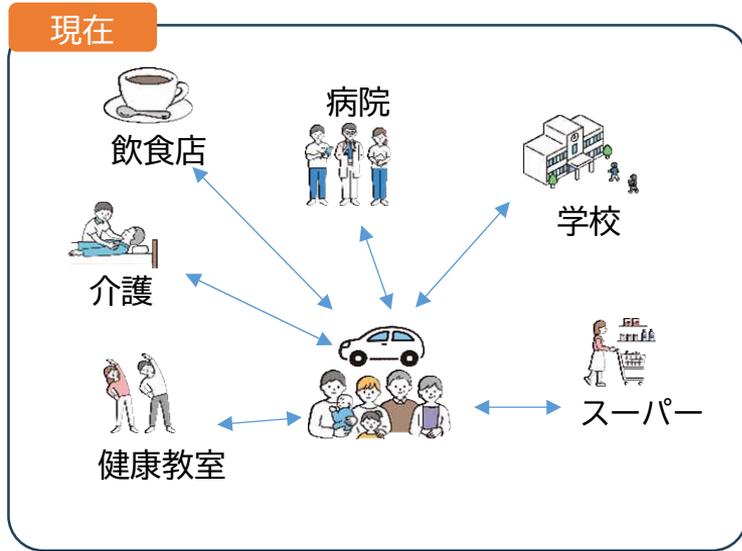
③

**コミュニティサポーターによる
人つなぎ・人づくり・幸せな暮らしの実現**

スマートインクルーシブシティで目指す未来の生活イメージ

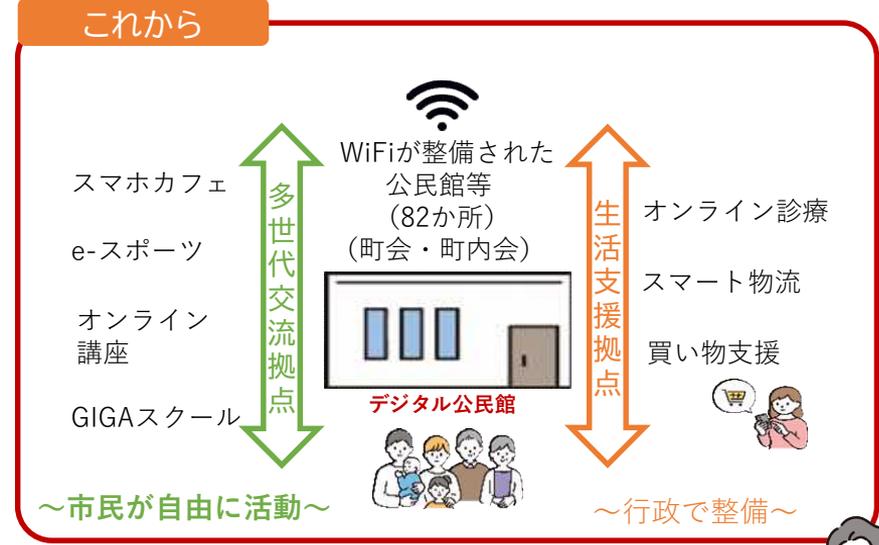
能美市の超高齢化・人口減少社会への対応の課題は「移動（人流・物流）」

① それぞれにきちんと行けるように（better：より良く）



それぞれに行く必要がある

② 行かなくてもよいように（Change：変える）



デジタルツールの活用により、近くの公民館に行くと、生活支援サービスを受けることができ、更に人との交流が生まれる



コミサポが
コーディネーター

未来のすがた（未来の生活）

人流・物流を減らした（最適化された）、公民館を活かした能美市型の生活スタイル（のみモデル）

→ 住み慣れた地域で孤立孤独がなく、ずっと住み続けられる（定住）

★減らすもの：移動（人流・物流）

★増やすもの：人の交流・コミュニケーション・生活の選択肢

★変わるもの：時間の使い方

コミュニティサポーター活動について (R5.4月～)

◎事業委託先 株式会社CNC (Community Nurse Company)
所在地 島根県雲南市木次町里方422番地
代表者 矢田 明子 氏

能美市では、コミュニティナーシングの考えをもち、活動する人を「コミュニティサポーター」* コミサポと呼びます



コミュニティナーシングとは (概念)

「人とつながりがまちを元気にする」

職業や資格ではなく誰もが実践できる行為・あり方

地域の人が元気なうちから「毎日の嬉しいや楽しい」を一緒につくり、心身・社会的な健康に満たされることに寄与する活動 *制度などにとらわれず多様なケア：関わりができる人を発見・増やす



「誰一人とり残されないスマートであたたかな能美市」の実現へ

【中核コミサポ】

株式会社CNC 担当者

町内会等の活動を中心に直接介入し、町の人と顔の見える関係を構築し、ニーズをキャッチし、実行につなげる

* 旗振り役

プロジェクトマネージャー1名
コミュニティサポーター 3名



【市民コミサポ】

中核コミサポと共にまちの公民館等の拠点を中心としたデジタルサービスのサポートや多世代のつながりを広げる実践メンバー



R6
市民コミサポ
養成16名

価値創造型の取組み

「したいこと、能美市だったら叶うかも」

～幸せな暮らしの実現～



スマホカフェ

市民が元気になること



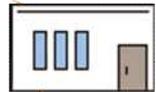
市民が楽しいと思えること



eスポーツ



コミュニティサポーター
による
デジタルを軸とした
価値創造 (コーディネート)



公民館でのデジタルサービス等のサポート

デジタルを
カジュアル推進

人・モノ
活動

企業

★CNC：市民コミサポ養成→養成講座を通じて主体的に実践できる人材を養成
市民コミサポの中から市民の中核コミサポを育成

課題について

- ①あらゆる世代に対するデジタル公民館活用のアイデア出しと活動実践
- ②デジタル公民館の活用につながる（イメージできる）PRの実施



学生の皆さんに期待すること



公民館を拠点とした活動には「コミュニティサポーター」が介入しており、今後、更にデジタル公民館が市民の魅力ある場所となるよう、貴大学の豊富な知見を生かし、コミュニティサポーターとともにアイデアを出し、実践し、その活動の魅力を分かりやすく市民に発信できること。

実施スケジュール（予定）

ご応募、よろしく
お願いします！



★オンラインミーティング（予定）

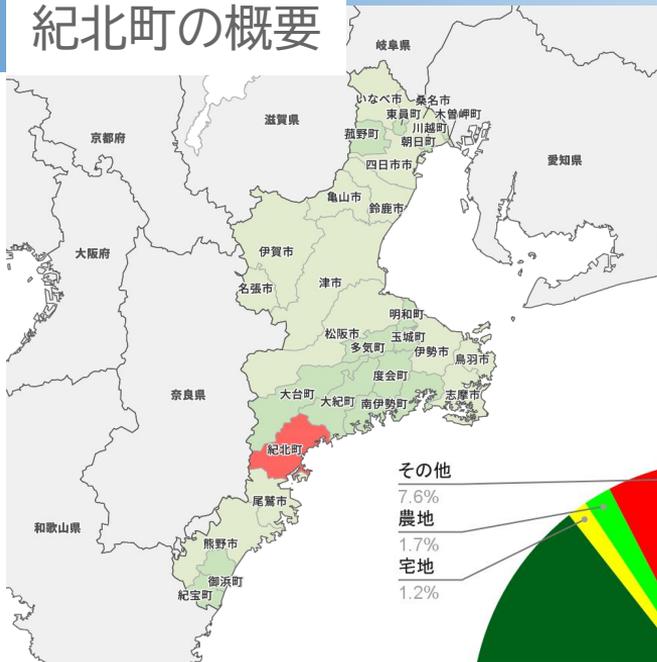
R7.6月	7	8	9	10	11	12	1	2	3
●顔合わせ ・能美市の取組み紹介 ・活動内容打合せ ★	●活動イメージづくり ・オンラインで現地活動見学 ・アイデア出し ★	●現地活動① ・現地見学 ・活動体験 ・企画検討	●企画内容等検討 (随時★)		●現地活動② ・モデル公民館にて学生主体に実践		●提案資料・PR検討 (随時★)		●現地報告会

高齢者地域におけるデジタルデバイス解消とDX推進支援



三重県紀北町企画課

紀北町の概要



燈籠祭

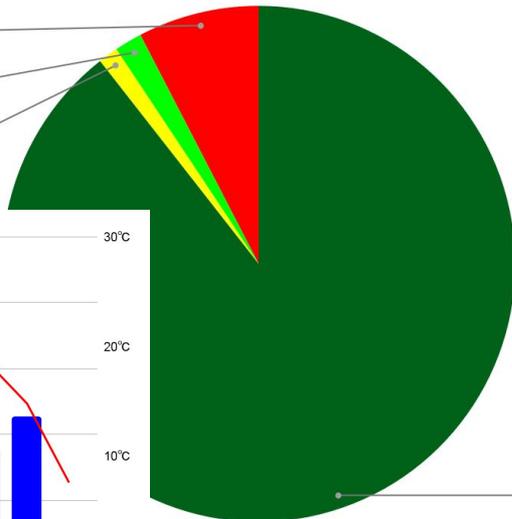


世界遺産:熊野古道

ツヅラト峠
 荷坂峠
 三浦峠
 始神峠
 馬越峠



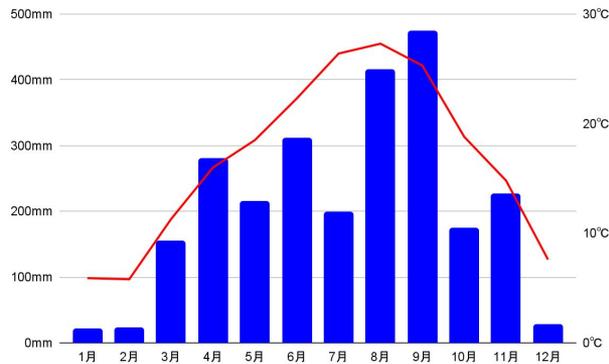
その他
 7.6%
 農地
 1.7%
 宅地
 1.2%



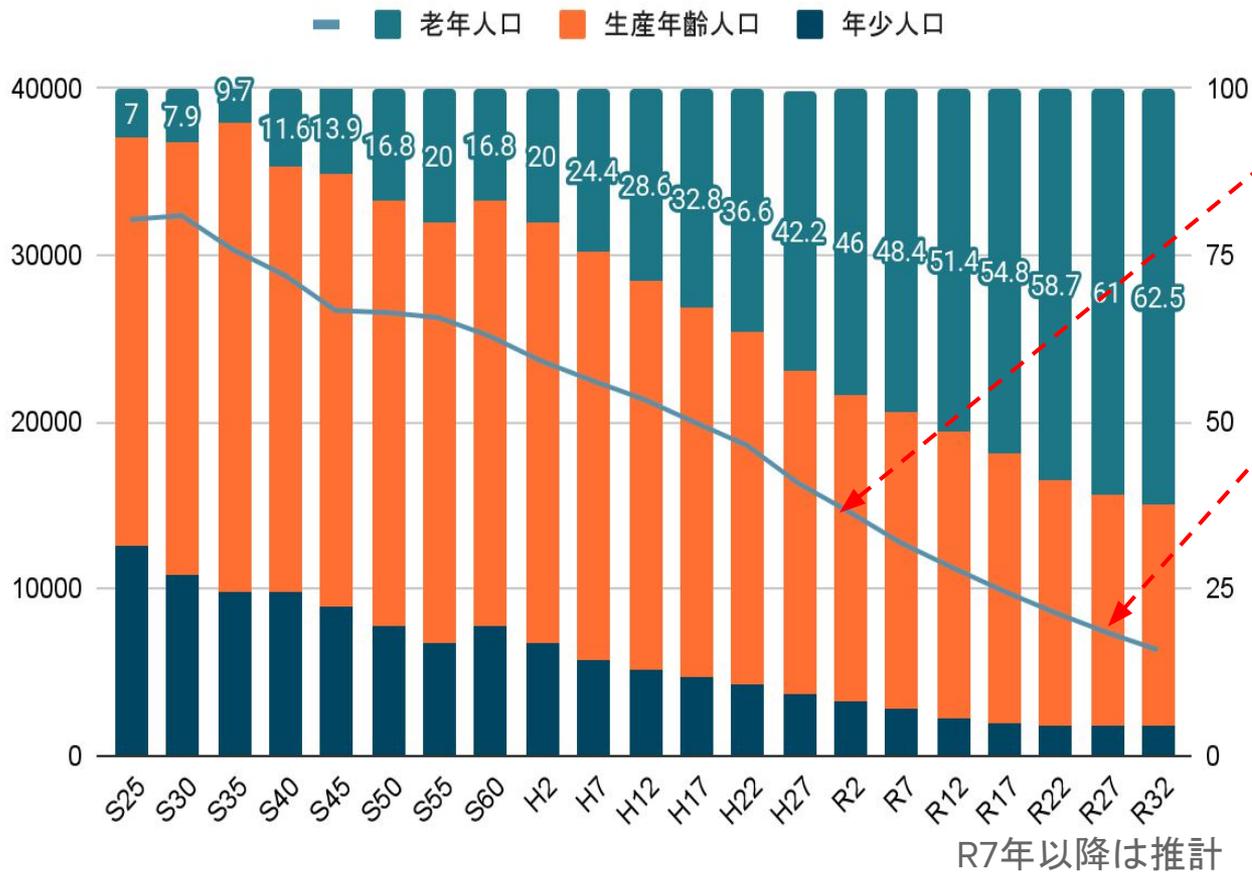
奇跡の川:銚子川



山林
 89.4%



背景



令和2年人口 14,604人



令和27年人口 7,395人

紀北町役場職員数

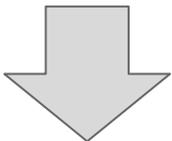
令和2年度 175人



令和27年度 ?人



職員の数→削減
業務の数→削減されない



DXによる効率化

- 業務フローの改善
- 業務システムの導入
- 電子化による効率化
- **オンライン申請の拡充**
- データ連携 他

オンライン申請拡充の方向性

すべての申請をオンラインで！

問題

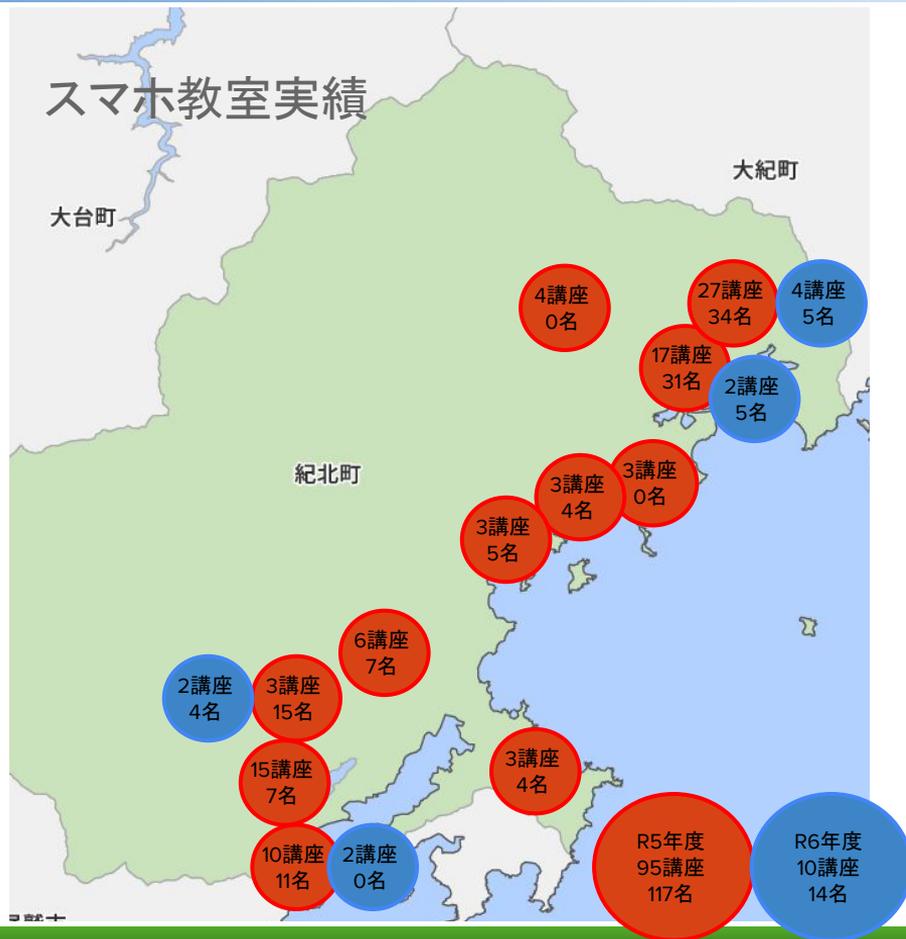
- 添付ファイルが大きいものがある
- 聞きながら申請をしたい人が多い
- **電子申請ができない人がいる**

効果的な
デジタルデバインド対策が必要



デジタルデバイス対策

スマホ教室実績



合計 105講座 131名受講
平均 1.25人/講座



広報不足？
講座内容に魅力がない？
開催場所の問題か？
そもそもスマホ教室は不要？



学生の皆様に期待すること

高齢者がオンラインで申請を行うためにはどうしていけばいいの？

- よりたくさん集客できるスマホ教室のアイデアの提案
- 高齢者のデジタルリテラシー向上のアイデアの提案
- より利用しやすいオンライン申請のかたちの提案

スケジュール(案)

6月～7月	オンラインMTG・現状調査
8月	実地調査 紀北町の高齢者に聞き取り調査 紀北町のオンライン申請システムの使い方講習
9月～11月	オンラインMTG・実地調査
2月	報告会



限界集落・道行竈地区における 関係人口の拡大

 三重県南伊勢町 道行竈区

地域の概要

【南伊勢町】

平成17年に南勢町と南島町が合併

人口・・・ **10,420人**

高齢化率・・・ **53.6%**

主な産業・・・水産業（漁獲量は三重県**No.1**）
農林業（**温州みかん**、柑橘類等）



伊勢志摩国立公園内の鶴倉園地

【道行竈（みちゆくがま）区】

人口・・・ **31人（22世帯）**（令和7年2月末現在）

高齢化率・・・ **70.9%**（令和7年2月末現在）

主な産業・・・ **水稻を中心**とした農業集落

源平合戦のころ、平家の落人が入植したものの、先住者によって既に漁業権が握られていたため、塩竈を造り塩を焼き、わずかな耕地を開いて自活したという「平家落人伝説」が伝わる「南島八力竈」（なんとうはっかかま）の一つ



道行竈の田んぼ



道行竈の入り江

地域の現状と課題

- 人口減少、高齡化による**耕作放棄地の増加**
- 担い手不足による**関係人口拡大**の必要性



- **日本酒プロジェクト**始動
- 地域住民の有志による**「チーム道行竈」**の結成
- 道行竈の酒造りが始まる



- 東大FS参加学生の受け入れ（2019年から過去4回受け入れ）
- JUON NETWORK「田畑の楽校」（農業ボランティアの実施）による田んぼの石拾いのボランティア受け入れ・集落散策等
- 大阪eco動物海洋専門学校・地元小学生との塩竈浜クリーンアップ

▶ イベント自体は継続できても、参加者との交流は一回限りになりがち

交流を継続できる関わり方づくりに取り組む必要がある

これまでの活動



昨年度の東大FS参加学生の提案

愛着を持って
関わってくれる人を増やす

**東大の学祭（五月祭）に
道行竈が出展予定！**

【東大生に期待したいこと】

■ 歴代東大FS生と連携して協力できる体制づくり

- ・ 東京や道行竈などにおける、歴代東大FS生が関われるイベントの発案
- ・ SNSやnoteなどの情報発信ツールでの発信 など



FS生の活動が地域の宝として今後も残り、歴代FS生にとっても再び参加する喜びとなるようなプロジェクトの発案

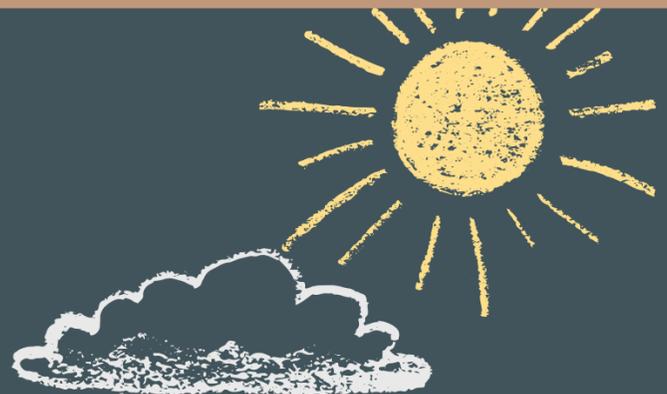
さらに・・・

- 道行竈の取組や、それを含めた「地域システム」が持続可能な形で継続できるようなアイデアの検討と着手

具体的なプログラム

活動月	活動内容
6月～	顔合わせ（オンライン）月1～2回程度
8月～9月	まち歩きを通じた、日本酒プロジェクト・道行竈の歴史・竈方文化の学習 地域住民との交流（現地活動 候補①）
9月～12月	関係人口構築のための企画打ち合わせ（オンライン）
11月	新酒の販促・販売準備（現地活動 候補②）
2月上旬	他団体が実施する農作業体験への参加、関係人口構築のための企画の試行（現地活動 候補③）
3月上旬	道行竈にて現地報告会

※現地活動日：①～③のうち、いずれか2つを学生の皆さんと打ち合わせで決定



滋賀県長浜市田根地区

大学生との持続的な繋がりの創出



滋賀県長浜市田根地区 概要

世帯数：550世帯 ※1

人口：1,384人 ※1

自治会数：14

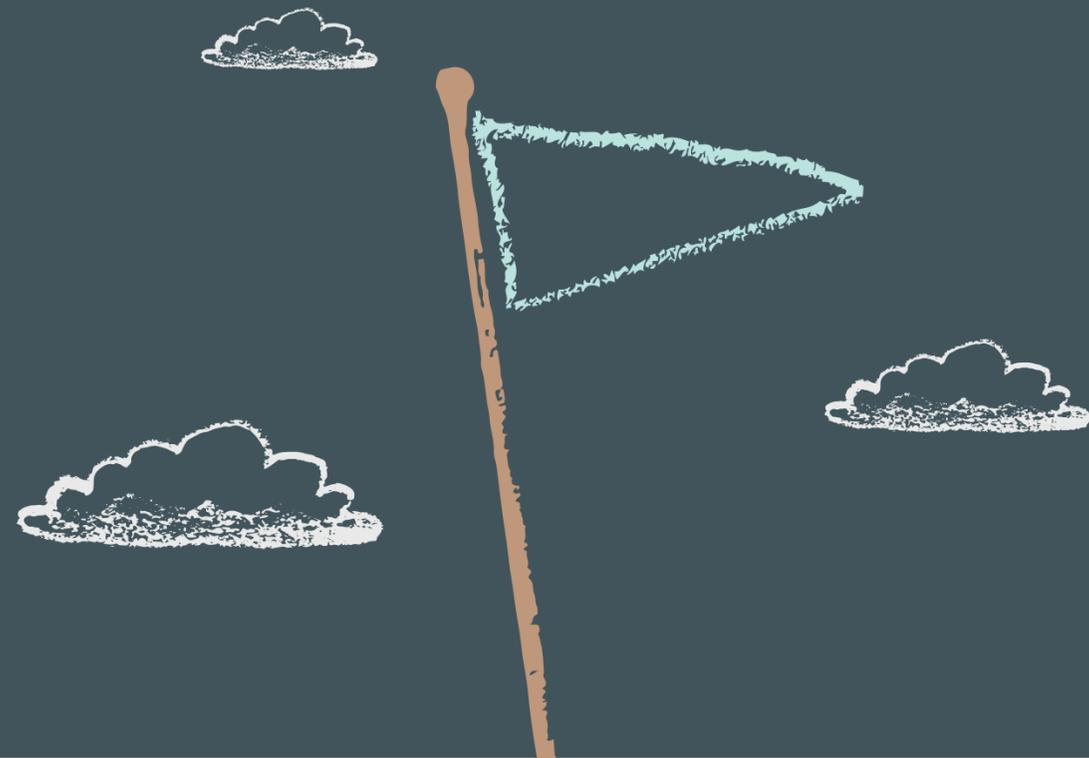
高齢化率：42.66% ※2

※1 長浜市HP「令和7年3月1日の人口と世帯数」引用

※2 長浜市HP「令和6年10月1日長浜市地区別高齢化率」引用



田根地区と 大学の歴史



- 2007年 田根地区地域づくり協議会 設立
慶應義塾大学 交流を開始
- 2008年 田根地区・地域づくり計画書 策定
- 2020年 新型コロナウイルス感染症 流行
- 2021年 東京大学フィールドスタディ型政策協働プログラム
滋賀大学 フィールドワーク
- 2022年 専修大学 フィールドワーク
- 2023年 早稲田大学 地域連携ワークショップ
京都橘大学 クロスオーバー型課題解決プロジェクト
- 2024年 立正大学 経済フィールドワーク
立正大学 地域発展委員会 イベント開催
人間環境大学 デイサービス連携
- 2025年 専修大学 高校連携（予定）
某通信制高校・大学 フィールドワーク(予定)

テーマについて

2024年度FSは「田根地区を訪れた大学生が継続して関わるための仕組み作り」というテーマで活動しました。その提案として、「ホームカミングデイ※」と呼ばれる、イベントを開催し、多くの大学生が田根地区に来訪しました。

2025年度はこの「ホームカミングデイ」を踏まえて、田根地区に関わった大学生が継続的に関わるための仕組みをブラッシュアップしてもらいます！

※田根地区に関わったことのある大学生が、田根地区に集まり、地域住民等も交えて交流する同窓会のようなもの。



ミッション



過去の取組の把握

地域住民や田根地区に関わったOBOGへヒアリングし、田根地区の歴史や課題、魅力について把握してください。



分析・提案

地域と大学生が持続的に関わる仕組みを作るために、何がボトルネックになっているか分析し仮説を立て、提案してください。



実行

仮説を基に、目に見える形で実行してください。



スケジュール案

春

- ・ 現地関係者や他大学の学生と情報共有
- ・ OBOGへインタビュー

夏

- ・ 現地活動で、他大学の学生と交流
- ・ 地域住民との交流、インタビュー
- ・ 地域資源の把握

秋

- ・ 現地活動で他大学の学生と交流
- ・ プランの実行、評価、改善案の検討

冬

- ・ 1年間の振り返りと引継ぎ
- ・ 最終報告会(学内・現地)

**自分自身も当事者となり、
自分のアイデアを実現してみよう！**



潜在利用者層へのアプローチ

岩出市立岩出図書館

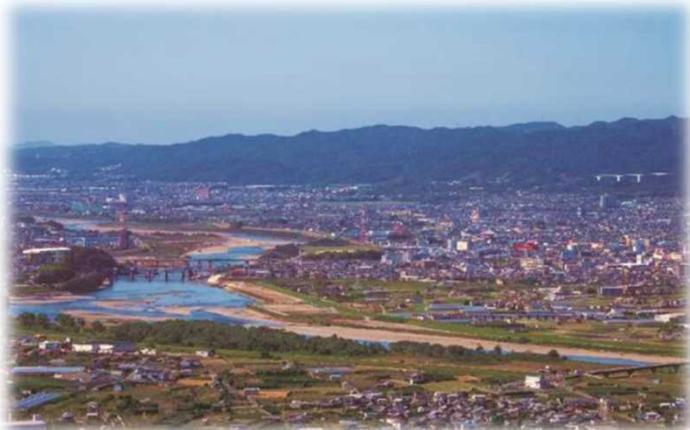
和歌山県岩出市の概要

■市制施行：平成18年
■人口：53,848人
■高齢化率：25.2%

■面積：38.51km²
■世帯：24,879世帯
■平均年齢：46歳

※令和7年2月末現在

岩出市は和歌山県の北部に位置し、緑豊かな山々と清流紀の川に恵まれ、新義真言宗総本山「根來寺」に重要文化財が数多く現存しています。



岩出図書館 の周辺施設



新義真言宗総本山根来寺（国宝多宝塔）



近畿大学生物理工学部



旧和歌山県議会議事堂（一乗閣）



民俗資料館



和歌山県立植物公園緑花センター



和歌山県立森林公園根来山げんきの森

岩出図書館は岩出市根来にあり、その周辺には国宝、国指定重要文化財、私立大学、県立及び市立施設があります。この地域のことを「岩出市文化文教ゾーン」と名付け、根来にある歴史や文化、自然を「学び」「あそび」「楽しむ」をつなぐことを目的として活動しています。

岩出図書館の事業（抜粋）

楽しみ④ … 趣味や特技を活かして活動できる！
岩出図書館で活躍されているグループのご紹介

おはなしドロップス

- 第1・2日曜日
- 午後1時30分～



絵本の読み聞かせ、紙芝居、手遊びなど季節感を大切にしながらおはなし会を開催しています。一緒に読み聞かせを楽しむメンバーを募集しています。

布絵本グループ

- 随時



図書館にある布絵本の製作が私たちの活動です。細かい手作業ですが楽しく製作しています。私たちと一緒に活動していただける方をお待ちしています。

映画会グループ/PRグループ

- 年4回

映画会グループでは、春夏秋冬に各1回、子ども向けの上映会を開催しています。



PRグループでは、上映会のチラシを作成しています。

展示グループ

- 随時



絵本の1ページをリサイクルの包装紙や折り紙等を使ってパネルを作成しています。岩出図書館エントランスに掲示していますので、図書館にお越しの際はぜひご覧ください。

補修グループ

- 毎週金曜日
- 午後1時30分～



破損本の修理などを行っています。1冊の本を多くの人が長く楽しめるよう活動しています。

おはなしのとびら（朗読グループ岩出やよい会）

- 第3・4日曜日
- 午後1時30分～



絵本の読み聞かせ、紙芝居、手遊びなどを通して、絵本を仲立ちに子どもたちと感動を共有しています。一緒に活動してみませんか？ぜひ、一度見学にお越しください。

図書館寄席の様子▶



◀百人一首を楽しもう！の様子

DIY講座の様子▶



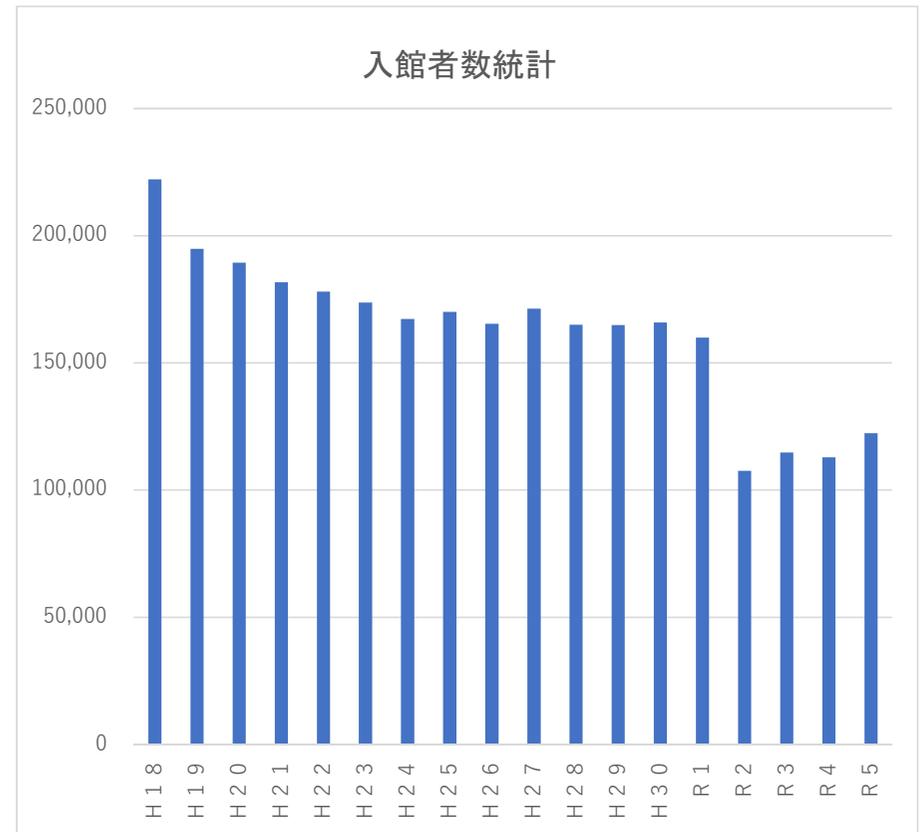
岩出図書館の現状と課題

■現状

- ①市の郊外に位置する単独型図書館
- ②ヘビーユーザーの利用は復調。あまり利用していなかった人がコロナを機に図書館から離れた。
- ③そもそも図書館を利用していない人たちがいる。
- ④ベッドタウン化している。新しく入ってきた市民が多い。

■課題

- ①子どもたちだけで来館することは困難
- ②新型コロナウイルス感染症の影響で、**入館者数等が減少**
- ③**潜在的利用者へのアプローチ方法を模索**
- ④地域コミュニティの衰退
- ⑤郷土愛を育むため、探求学習の手法の糸口を探索



潜在利用者層へのアプローチに係る具体的な提言・提案をお願いします。

事業スケジュール

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
顔合わせ 打ち合わせ (オンライン)			現地活動① <ul style="list-style-type: none">・ 地域課題の整理・ 課題解決提言に向けた情報収集等		現地活動② <ul style="list-style-type: none">・ 提案企画の実践、 検証					現地報告会実施 <ul style="list-style-type: none">・ 活動のまとめ・ 次年度活動計画



「人と本、人と人がつながる図書館」「様々な世代が交流できる図書館」
「親しみやすく、多くの人々が気軽に集うことができる図書館」を目指します。

里山集落の持続可能性と その現代的価値の再発見

和歌山県那智勝浦町 色川地域

色川地域振興推進委員会

中山間に位置する里山集落



▶ 平家の落人伝説が残り1000年の歴史を有する。

▶ 明治22年、10ヶ村をもって色川村。昭和30年、大合併にて那智勝浦町となる。

▶ 鉱山が栄た頃には人口が3,000人程。鉱山の閉鎖以降人口減少、高齢化が進む。

▶ 休耕田の増加や山林の荒廃が進み、「むらの消滅」への危機感が高まっていく。

移住者を受け入れ半世紀

▶ 1975年有機農業を志す移住希望者の訪問

▶ 2年間にわたる住民有志が話し合いを重ね

▶ 保守的な農村で実現した「よそ者」の受け入れ

▶ 住民の計り知れない苦勞と努力

異質なものへの理解と寛容性

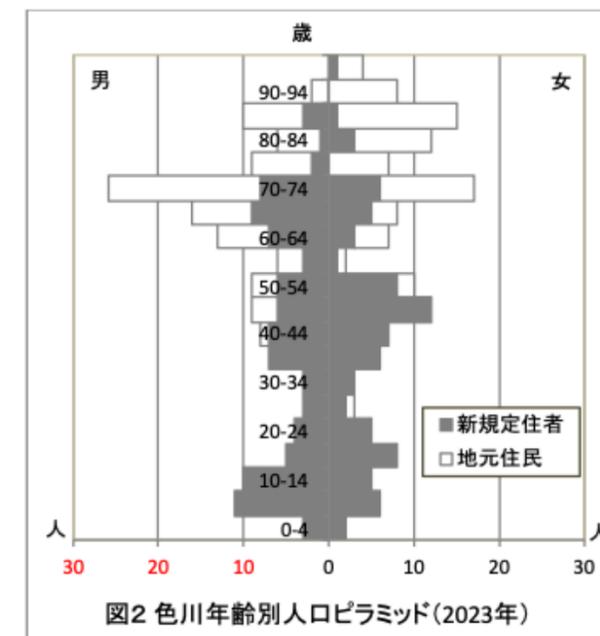


図2 色川年齢別人口ピラミッド(2023年)

移住者の割合が6割を超える。

▼ 先祖代々で繋がってきた暮らしの厚み

「海を見たことがない。」積み重ねられた暮らしの存在

▶ 集落に生まれ集落で暮らし集落で一生を終えた人たち

そして、里山とともに暮らしてきた人々

▶ 先人たちが山を切り開き築き上げてきた棚田、その周辺に広がる里山

▶ 大木が林立する奥山、そしてその山を縫うように流れる大小の川



▼ これからの地域運営のあり方を模索

「いつもおおきによ」の挨拶

▶ 周囲から隔絶された色川地域は、人の繋がりこそが地域活力の源泉

▶ 自然と発せられる「おおきによ」の挨拶に、地域らしさの一端を感じる

▶ 「よそ者」を受け入れ、先人たちが繋ぎ、守ろうとした「らしさ」とは

▶ 地元住民の多くが75歳の高齢者となり、現役世代のほとんどが移住者

▶ 今までと同様の「地域運営」が可能かどうか問われ始めている

▼ 2つの課題

積み重ねられた厚みのある暮らしが変容

地域の先行きが不透明

1



里山集落の持続可能性

日本全体で2019年までの4年間で164集落が消滅した。

農地保全、鳥獣害、学校存続など、地域の課題は様々な濃い人の繋がりの中、長年の「地域自治」の歴史がある
社会の変遷とともに暮らしが様変わりしてきた

地域運営のあり方

地域らしさの継承

2



里山集落の現代的価値の再発見

経済的合理性とは違う「価値観」との出会い

閉塞感や分断、貧富の格差、生きづらさを感じる社会
「地域社会」という存在の希薄化に伴う様々な弊害
里山集落が元来持ち合わせていた役割や機能

不便は豊かである

助け合い暮らし合う

非合理的な時間

▼ 都会とはまた別の「地域」があるということ

ぜひ現場の生の声を聞いてほしい

先祖代々暮らしを繋いできた人たち

地域らしさを繋ごうと足掻く人

都会から移り住み、ここを居場所と決めた人

観る

聴く

感じる



Mission



里山集落の現代的価値を再発見し、持続可能な地域運営のあり方を提案

里山集落の実情について、広く若者の間で情報発信を展開

日本中で、先祖代々暮らしを繋いできた里山集落が消滅していく中

「諦めない」集落が一つでも増える一助になることを期待する

スケジュール

平日、週末問わず年中受け入れが可能。遠方のため最低1回あたり2泊3日は滞在を理想とする。

schedule

- 2025年6月 参加学生との顔合わせ、活動計画等打ち合わせ(オンライン)
- 7月 活動計画等調整 (メール等)
- 8月 現地活動 (1回目)、盆踊りや寺の行事 (8月12日~14日頃)
- 9月 草刈り作業など住民と共同作業も可能
- 10月 現地活動 (1回目) の振り返り (オンライン)
- 11月 現地活動 (2回目) の事前打ち合わせ (オンライン)
- 12月 現地活動 (2回目)、運動会 (10月下旬) や宮祭り (11月上旬) など行事への参加も可能
- 2026年1月
- 2月 現地活動 (2回目) の振り返り (オンライン)
- 3月 報告会 (現地)



色川地域振興推進委員会が主体となり、地域と連携して学生を受け入れます。

江津の子どもたちの未来の生活・居場所を守る



江津市 経済部門 地域振興課

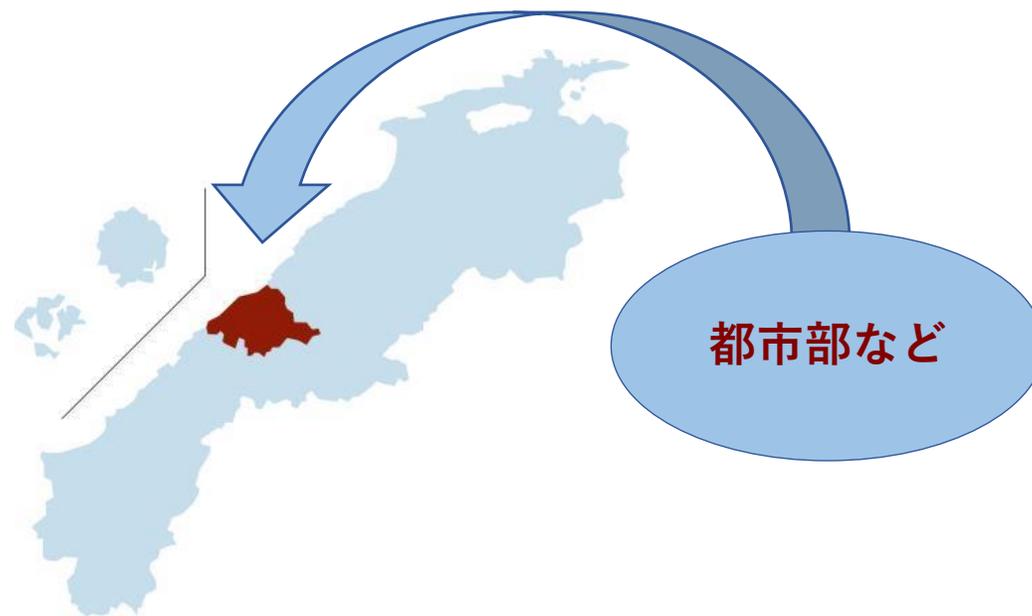
地域に学校がなくなると地域活動量も減る



地域を守るためにも、地域から学校がなくなることを防ぎたい

学校統廃合の回避のため、未就学児の子育てファミリー層に移住してきて欲しいが、ハードルが高い

・就職(転職)、転校、世帯での引っ越しなど



今の地域の賑わい創出や将来の人口増を見据え…

地域の魅力を活かしながら、行動力を発揮しやすい若者世代に関心が得られるイベントができないか

GO▶GOTSU!

山陰の「創造力特区」へ。

GO▶GOTSU! 山陰の「創造力特区」へ。江津市は、2016年よりこのスローガンを掲げ、まちに芽吹き出している創造的な動きを後押しし、盛り上げていきたいと考えています。

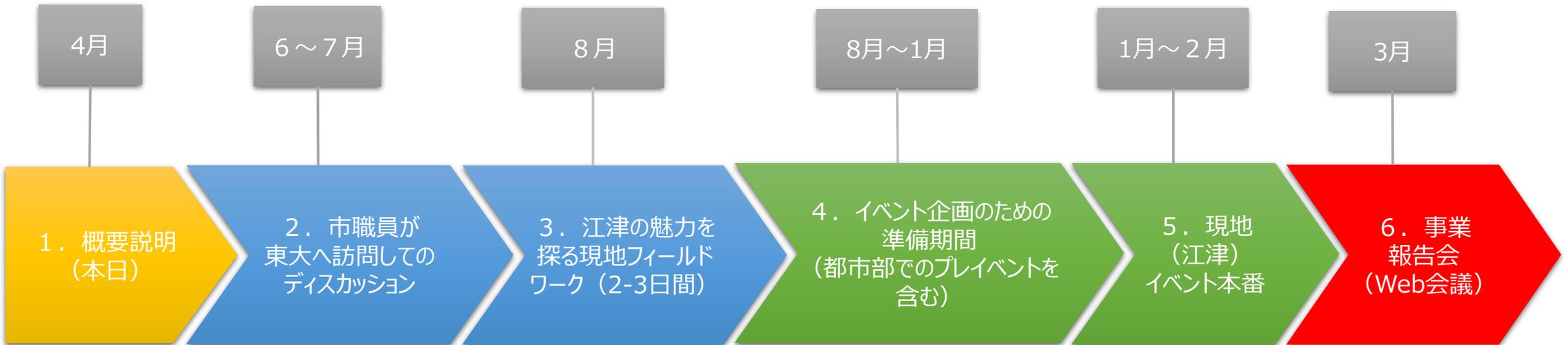
[GO▶GOTSUブランディングサイトへ](#)

江津市の紹介

中国地方最大の大河、江の川。中国山地の水源から194キロ、多くの支流の水を集め日本海に注ぐ河口に、江津市は位置しています。「江津（川の港）」の名のとおり、古くは江の川河口の港として発展し、江戸時代には北前船の寄港地として栄えました。かつての中心地であった江津本町には江戸時代に建築された商家の家屋なども多く残り、往時の面影を今にとどめています。

2025年度 フィールドスタディ型政策協働プログラム 事業スケジュール（予定）

- ✓ スケジュール概要は以下の通りですが、あくまでもオリエンテーション用スケジュールですので、参加者のご都合によって変更することは可能です。
- ✓ 現地イベントの前（11月中旬まで）に来年度予算要求のため、イベント実施のための予算案を可能であれば概算で提示していただくと助かります。
- ✓ 必要に応じて、Web会議システムなどで、随時、連絡を取ります。





**一緒に江津の子どもの未来の生活や
居場所を守りませんか**

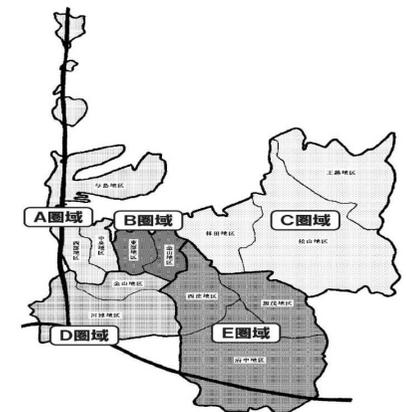
ご清聴ありがとうございました

Sakaide, Kagawa

坂出市の概要

- 01 人口が約5万人
- 02 瀬戸大橋の四国側の玄関口
《3つの島(橋でつながっている)がある》
- 03 日常生活圏域は5圏域
- 04 高齢化率が約35%
《市街中心部は33.8%、市街から離れると38.4%となり、地域差がみられる》
- 05 関係機関からの認知症に関する相談件数の増加

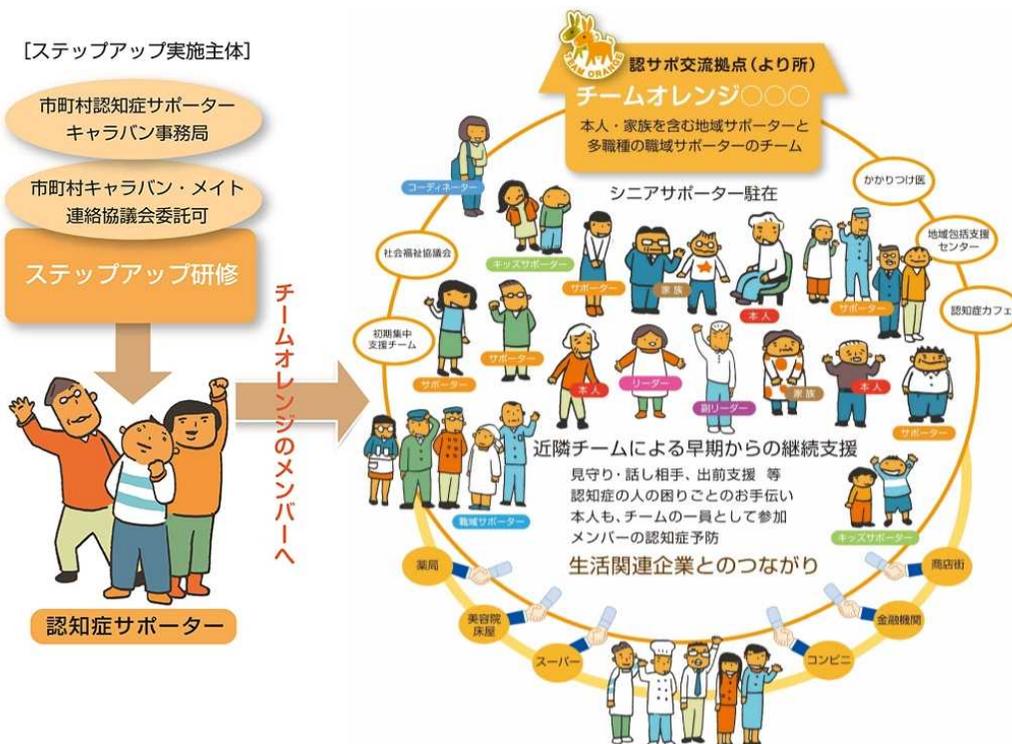
「チームオレンジ」の結成を通して
認知症のかたを支える地域づくりを行いたい



「チームオレンジ」とは

本人、家族、認知症サポーター等が中心となって、認知症のかたの見守りや支援を行う活動です。本人もメンバーとして参加します。

- 01 認知症のかたや家族の困りごとに対する相談や支援
- 02 認知症のかたのやりたいことのお手伝い
- 03 認知症のかたが活躍できる場を提供



チームオレンジの3つの類型

第1類型

共生志向の標準タイプ

活動拠点を設置して活動
(ex.市役所、公民館)

第2類型

既存拠点活用タイプ

既にある地域資源を活用
(ex.認知症カフェ、介護予防教室)

第3類型

拠点を設置しない個別支援型

拠点をつくりずに支援を行う
(ex.健幸ウォーキング、自宅訪問)

坂出市の取組み

01 認知症のかたや
その家族が交流できる場

認知症カフェ
「さかいでオレンジ
かふえ」

認知症のかたやそのご家族が交流できる場
さかいでオレンジかふえ

認知症のかたやそのご家族が専門職（介護福祉士や看護師など）に相談したり、本人・家族同士が情報交換したり、地域住民と交流ができる場所です。どなたでも参加できますので、お気軽にご参加ください。

<p>原町南郷 (1階)</p> <p>① 場 毎月第1水曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第2水曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第3水曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第4水曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第5水曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第6水曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第7水曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第8水曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第9水曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第10水曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第11水曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第12水曜日(午後2時～午後4時迄)</p>	<p>家原南郷 (1階)</p> <p>① 場 毎月第1木曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第2木曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第3木曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第4木曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第5木曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第6木曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第7木曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第8木曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第9木曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第10木曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第11木曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第12木曜日(午後2時～午後4時迄)</p>	<p>かけ橋しCafe (1階)</p> <p>① 場 毎月第1金曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第2金曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第3金曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第4金曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第5金曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第6金曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第7金曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第8金曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第9金曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第10金曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第11金曜日(午後2時～午後4時迄) 場 毎月第12金曜日(午後2時～午後4時迄)</p>
---	---	---

認知症のかたやご家族の相談、交流などできる場所 | ご家族のかたは介護の想いを、わかり合える人と出会う場所 | 認知症のかたが自ら活動し、楽しめる場所

02 認知症のかたなど
地域住民が参加できる場

さかいで健幸まつり
& 介護の日

どなたでも参加無料
※会場には移動車を用意しております。
※エレベーターはございません。

健幸コーナー
健康づくりをすすめる市民の会

- ・健康づくりをすすめる市民の会
- ・パラスポ 若い世代、朝食コンテスト 三進特のび、み・つ
- ・ベジチェック
- ・血管年齢測定

会場：1階ロビー

介護予防コーナー
転ばないからたづくりのため、やってみよう♪

- ・TUGテスト
- ・開眼片足立ち
- ・血圧、握力、身長体重測定
- ・体組成測定(先着60名)
- ・2ステップテスト
- ・立ち上がりテスト
- ・オーラルフレイルチェック

認知症カフェ(ワークショップ、相談) 会場：2階大会議室

リフレッシュ ヨガ
ヨガを通して心も体もリフレッシュしてみませんか?

- ① 9:30～10:00 (15名まで)
- ② 10:30～11:00 (15名まで)
- ③ 11:30～12:00 (15名まで)

※動きやすい服装で、各自飲み物を持参してご参加ください。
※当日受付(先着順)

健康づくりをすすめる市民の会 会場：3階中会議室2

骨密度測定
標尺になって簡便に測定できます。

会場：3階小会議室1

2023. 11月18日(土)

5:00～12:00(受付は11:30まで)

主催：坂出市けんこう課、かいご課
健幸まつり：けんこう課 ☎44-5006
介護の日：かいご課 ☎44-5001

会場：坂出市役所 (坂出市役所2階第3会議室)
※駐車場に限りがありますので、お車の方は徒歩や自転車等
介護の日：かいご課 ☎44-5001

03 認知症への理解を
深め、啓発する活動

世界アルツハイマー
デー in さかいで



04 認知症への理解を深め
地域でともに暮らしていく
方法を学ぶ講座

認知症サポーター養成講座
認知症サポーターステップ
アップ講座
市民後見人養成講座

実績(R7年2月末時点)

- 01 認知症サポーター養成講座(計5,004名)
- 02 認知症サポーターステップアップ講座(計88名)
- 03 市民後見人養成講座(計32名)

目的

認知症のかたや家族が安心して暮らせる地域づくり

現状

- 01 ▷▷ 運転免許証返納に伴う家族間のトラブルに対しての相談の増加
- 02 ▷▷ ものとり妄想による相談の増加
- 03 ▷▷ 徘徊の相談件数の増加
- 04 ▷▷ 新聞だまりの連絡の増加
- 05 ▷▷ 虐待件数の増加
- 06 ▷▷ 認知症初期集中支援チームの相談件数の減少

コロナ渦で施策が一部制限された結果、地域社会の支え合い機能の衰退が顕在化

目標

- 01 ▷▷ 認知症のかたや家族が相談できる場所や気軽に利用できる場所をつくる
- 02 ▷▷ 認知症になっても役割をもち、そのかたらしい生活が行えるようにする
- 03 ▷▷ 地域住民の認知症への理解が深まり、適切な支援を理解することができる
- 04 ▷▷ 地域住民が、認知症のかた等と自らのできる範囲内で支援や活動を行っていく

学生にお願いしたいこと

新しい視点

- 01 理論的な発想
- 02 クリエイティブな発想

地域力の再生

- 01 地域住民のもつ経験・実践
- 02 地域のもつ潜在的な力

新たな価値

- 01 坂出市の課題を解決する新たな認知症施策
- 02 新たな地域資源の発掘

『ゼロベース』から、学生・住民とともに高齢者を支える地域づくりを行っていききたい

学生とのスケジュール

5月 オンライン会議(事業説明)

6月 オンライン会議(課題分析)

7月 オンライン会議
(フィールドワーク実施前の打ち合わせ)

8~9月 フィールドワーク実施
(チームオレンジの参加・交流)

10~11月 オンライン会議
(活動の振り返り・課題分析)

12月 オンライン会議
(フィールドワーク実施前の打ち合わせ)

1~2月 フィールドワーク実施
(チームオレンジの参加・交流)

3月 オンライン会議(最終報告)

住民とのスケジュール

①チームオレンジ(西部つどいの家)

▶ 白金町一丁目3番38号 ▶▶ 坂出小学校の近く

②チームオレンジ(東部老人いこいの家)

▶ 久米町一丁目17番11号 ▶▶ 消防本部の近く

③チームオレンジ(林田公民館・松山公民館)

▶ 林田町636番地5 ▶▶ 林田小学校の近く
▶ 高屋町1100番地1 ▶▶ 松山小学校の近く

④チームオレンジ(南部公民館)

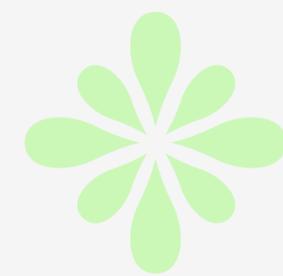
▶ 池園町3番46号 ▶▶ 坂出商業高校の近く

⑤チームオレンジ(加茂公民館)

▶ 加茂町645番地7 ▶▶ 加茂小学校の近く

▶▶ 5圏域を拠点として活動を行う

▶▶ 各圏域で月1回程度の開催を予定



權風ゼミ

~高校生と一緒に

島の未来を考えよう~



香川県土庄町

目次

- 1- 土庄町の概要
- 2- 土庄町の課題
- 3- 權風ゼミについて
- 4- スケジュール (仮)



1

土庄町の概要

1- 土庄町の概要



【位置】

土庄町は、瀬戸内海国立公園の東部に浮かぶ小豆島の西北部に位置し、東及び南に境を接する小豆島町とともに香川県に属する

【面積】 74.38km²

【人口】 11,619人 ※R7.3.1現在
(男5,485人 女6,134人)

【世帯数】 5,273世帯 ※ R7.3.1現在

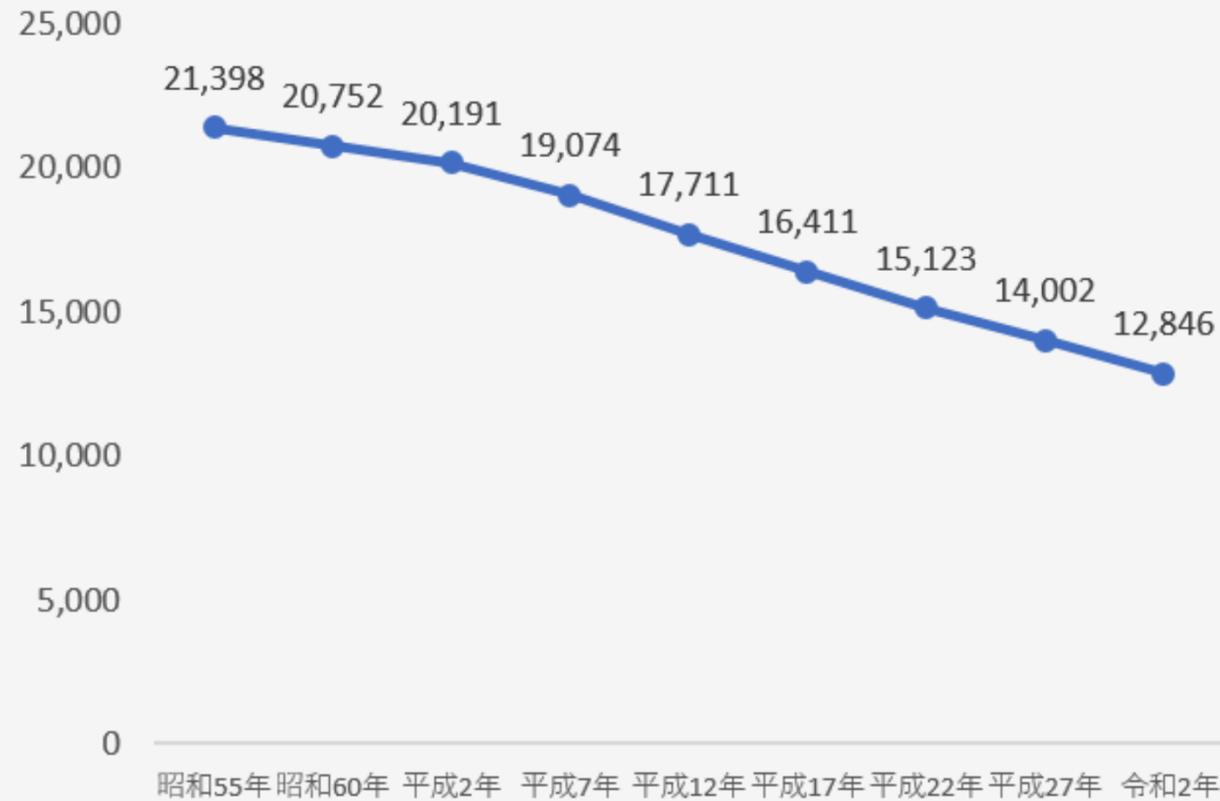
【高齢化率】 42.7% ※R3.4.1現在

2

土庄町の課題

2- 土庄町の課題

【人口の推移】

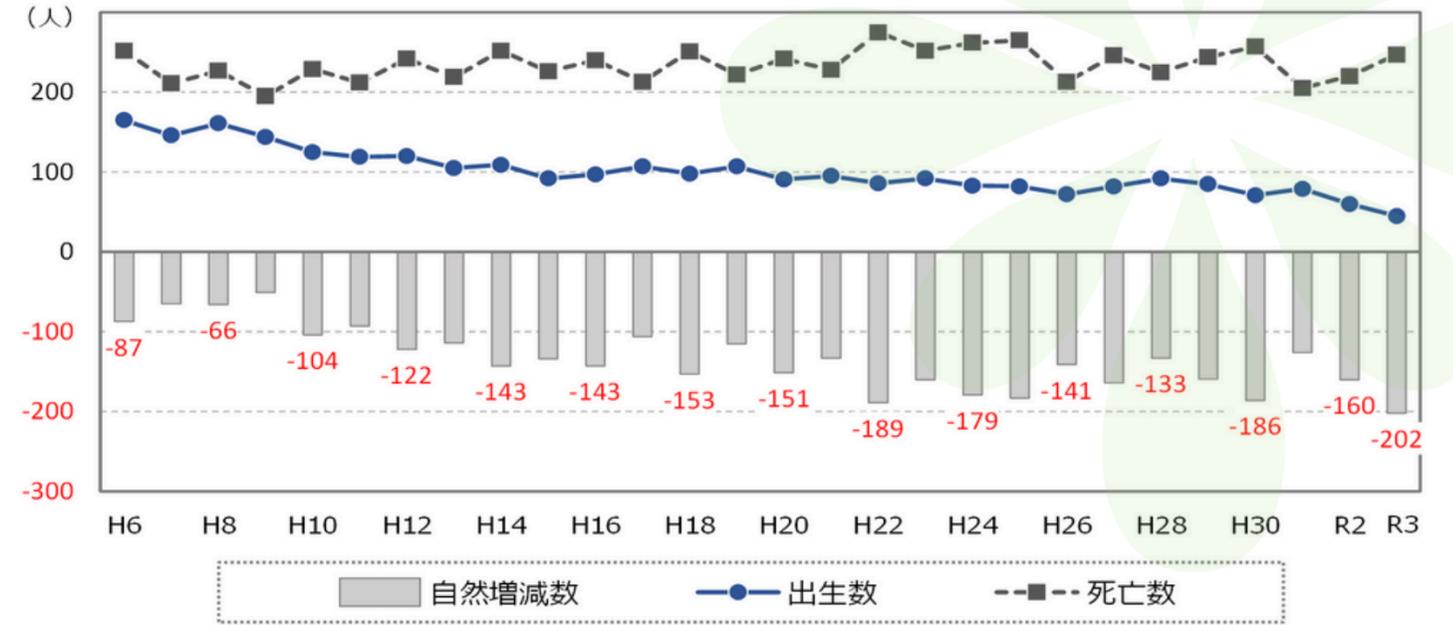


出典：総務省「国勢調査」令和2年

●土庄町の現状と課題

- ① 2万→1万2千人まで人口が減少
- ② 自然減が増加。
社会増減は、過去10年でほぼ横ばい
- ③ 出生数が大幅に減少している

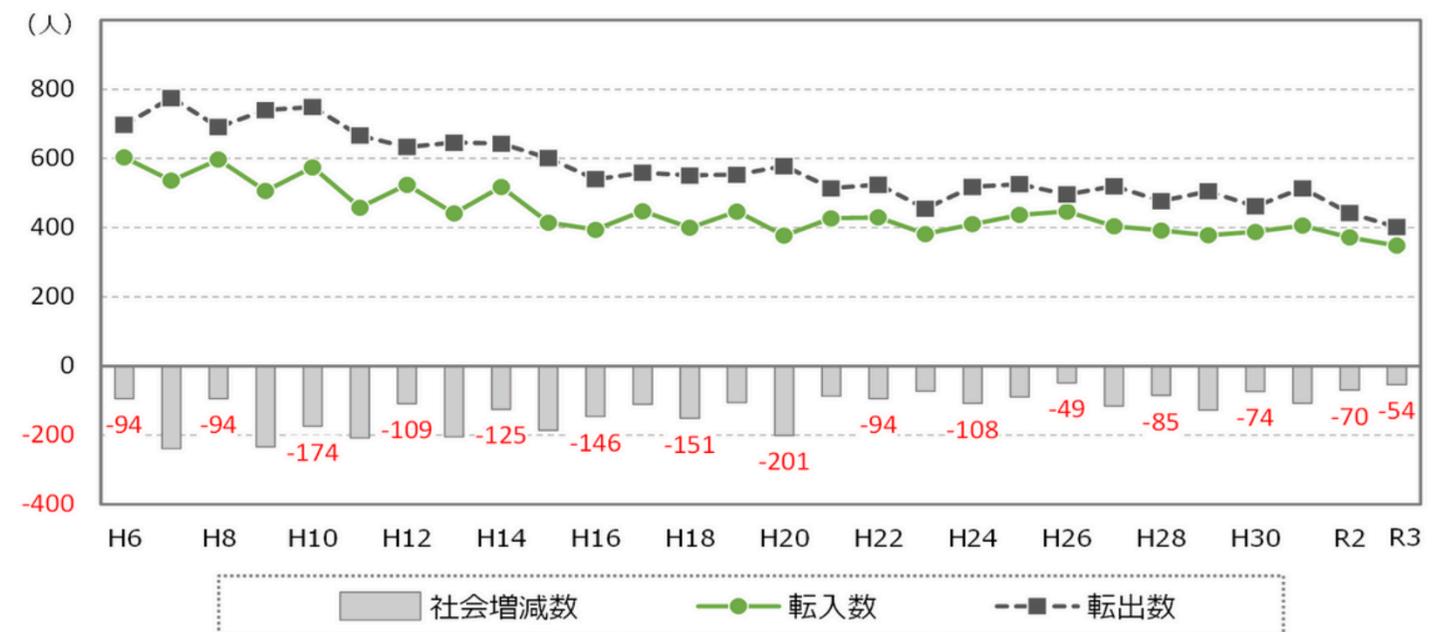
【自然増減の推移】



資料：総務省「住民基本台帳」

※H6～H24は各年4月1日～翌年3月31日、H25～は各年1月1日～12月31日

【社会増減の推移】



資料：総務省「住民基本台帳」

※H6～H24は各年4月1日～翌年3月31日、H25～は各年1月1日～12月31日

2- 土庄町の課題



●土庄町の課題

高校・大学進学を機に島外へ出て行ってしまったため、若年層(10代~20代)の転出者が最も多くなっている。
今後島内の高校に進学する生徒数が減少してしまうと、島に1つしかない高校の存続が危機的状況に…



高校生と一緒に小豆島中央高校の魅力化について検討し、小豆島の未来に繋がる提案をしよう！！

年齢	転入			転出			転入超過数		
	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計
0~4歳	16	9	25	6	8	14	10	1	11
5~9歳	2	3	5	3	2	5	-1	1	0
10~14歳	6	4	10	5	2	7	1	2	3
15~19歳	3	3	6	13	12	25	-10	-9	-19
20~24歳	29	32	61	36	53	89	-7	-21	-28
25~29歳	30	21	51	31	32	63	-1	-11	-12
30~34歳	23	26	49	18	20	38	5	6	11
35~39歳	14	18	32	15	13	28	-1	5	4
40~44歳	11	7	18	12	13	25	-1	-6	-7
45~49歳	8	10	18	7	6	13	1	4	5
50~54歳	12	9	21	10	5	15	2	4	6
55~59歳	6	4	10	8	6	14	-2	-2	-4
60~64歳	5	2	7	4	3	7	1	-1	0
65~69歳	2	5	7	0	0	0	2	5	7
70~74歳	2	7	9	3	3	6	-1	4	3
75~79歳	0	1	1	4	4	8	-4	-3	-7
80~84歳	1	0	1	0	6	6	1	-6	-5
85歳以上	1	10	11	2	7	9	-1	3	2
計	171	171	342	177	195	372	-6	-24	-30

3

權風ゼミについて

3- 權風ゼミについて



行政×高校×企業×地域団体×専門学校

生徒が地域の課題を知り、その課題を分析しながらよりよい地域づくりへの提案を考える活動を通して、地域を中心とした社会に貢献しようとする姿勢を育み、卒業後も小豆島や小豆地域とかわり続けるきっかけをつくることを目的として、総合的な探究の時間「權風（かいふう）」を実施している

3- 權風ゼミ～事例～



ワークショップの実施

高校生と一緒に地域課題について学習し、ワークショップを通じて課題解決の提案まで行っていただきます。

魅力ある高校づくり、地域づくりを行うためには、どのような施策が有効的なのか…

高校生と大学生の若い視点で、柔軟な提案を期待しています。



現地活動（課題の掘り起こし）

高校生とのワークショップを踏まえて、実際に小豆島の観光地などを巡ることで、地域課題の掘り起こしを行います。ワークショップでは個人のテーマを持って行いますが、3月の報告会に向け、東大生の中で1つのテーマに縛ってもらう現地調査となります。



課題解決策の提案

現地活動を踏まえて決定した課題に対する解決策を提案していただきます。昨年度、ご参加いただいたチームは、アート観光の魅力を通じて土庄町への移住者の増加に繋げることを目的に、高校生と一緒にアートマップを作成していただきました。

4

スケジュール



4- スケジュール (仮)

4月

インプット

5月

権風ゼミの始動

6月

事前交流・課題設定〈オンライン〉

7月

現地活動 (1回目)

高校生とのワークショップ

9月

オンライン会議など (随時)

12月

現地活動 (2回目)

3月

報告会 **〈高校生による成果発表会も現地参加可能〉**



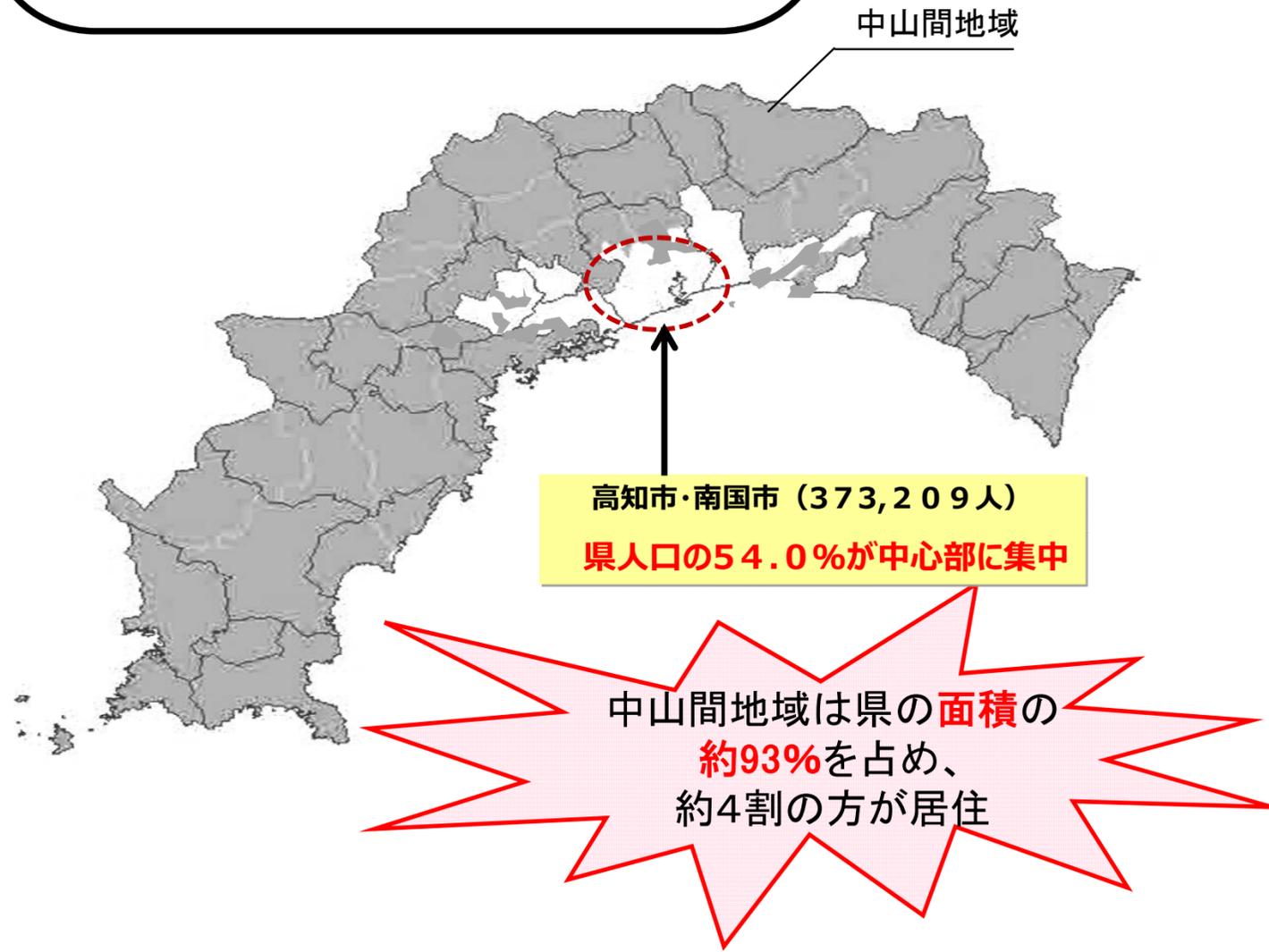


高知家

中山間地域における 買い物支援の仕組みづくり

高知県 中山間地域対策課
日高村役場 企画課

高知県の概要



中山間地域とは

- 山間地やその周りの地域等、その他地理的条件が悪く農業の生産条件が不利な地域
- 洪水や土砂崩れを防ぐ等、生活を守る多くの機能があり、国土保全上、重要

◇山間部



V字型の地形(山・川・山)



農地に適した土地が少ない



家屋が斜面に点在し、集落を形成

◇海岸部



山と海との距離が近い



平地が少ない

【人口】 691,527人(全国45位)
【面積】 7,103.63km²(全国18位)
【人口密度】 97.3人(全国44位)

※令和2年国勢調査より作成

【森林面積】 84%(全国1位)
全国平均 67%

※林野庁ホームページ都道府県別森林率(平成29年3月31日現在)より作成

* 令和3年度高知県集落調査より作成

面積(km ²)			人口(人)		
県全体	中山間地域	割合	県全体	中山間地域	割合
7,104	6,623	93.2%	691,527	262,503	38.0%

本県の中山間地域における買い物環境と課題

食料品や日用品を販売する店舗の撤退

- ・人口減少によりスーパー等の店舗が閉店
- ・経営を引き継いでくれる事業者を募集しても、採算が見込めず後継者がいない



公共交通機関の減便・廃止

- ・バス停が遠く、歩いて行けない
- ・本数が少なく、必要なときにすぐ買い物に行けない



高齢化

- ・高齢者は運転免許の返納等によって交通手段がなくなる
- ・ネットの利用に不慣れで、既存のネットスーパー等の活用が困難



買い物サービスの維持や確保が困難となってきた

中山間地域の住民が、住み慣れた環境で不自由なく
買い物ができる仕組みづくりが急務

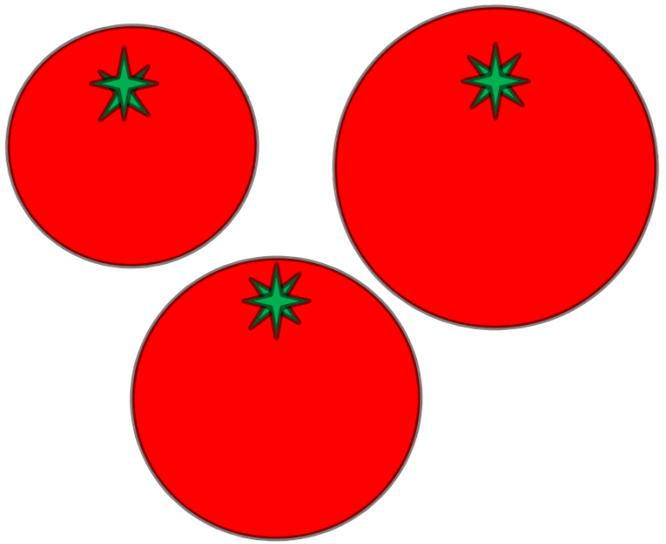
日高村の概要

- 高知県のほぼ中央に位置する、人口約4700人の村
- 村の北部を仁淀川が流れ、丘陵の連なりの中を国道とJR線が平行して走る
- 主な産業は製紙業を中心とした工業



高糖度トマトを"シュガートマト"としてブランド化

平成26年に始めた「オムライス街道」事業により日高村＝トマトのイメージが定着



日高村の買い物環境について

令和6年9月
村の中心部にあった

村唯一のスーパーが閉店



今まで徒歩で買い物が出来ていた人が
村外まで買い物に行かなければならなくなった

- 村がバスを出すなどの支援を実施中だが、
「バス停まで距離があって歩くのが大変」
「本数が少ない」など、課題がある



「デジタル化」への取り組み

村まるごとデジタル化事業

日高村では「村まるごとデジタル化事業」により、
”スマホ普及率100%”を目指す取り組みを実施

現在**92.7% (実質)**
を超える普及率



しかし、
高齢者はスマホを保有しても、ネットスーパーで買い物をすると積極的な活用には至っていない

バーチャルスーパーの導入 (村内山間部)

村内の山間部の店舗では、デジタルサイネージを活用したバーチャルスーパーを導入
利用者はまだまだ少なく、活用はこれから



今後のスケジュール

活動月	活動内容
8月～9月	現地活動(1回目): 課題の調査
10～11月	課題整理・解決案の作成
12月	現地活動(2回目): 解決案に基づく実証
1月	実証結果のとりまとめ
2月～3月	現地報告会

東大生に期待したいこと

- ・買い物やデジタル環境について、地域の現状や住民ニーズの詳細な聞き取り
- ・行政の既存の取り組みに限らず、(通常のやり方以外も含めた) 幅広い視野からの対応策の検討
- ・(可能であれば) デジタル技術の活用による課題の解決



東京大学フィールドスタディー型
政策協働プログラム提案

中山間地域の課題等の 解決に向けて

いいだ ななまがり
～ 佐賀県 鹿島市 飯田七曲地区 ～



1. 鹿島市の概要

人口は2.7万人

東は有明海、南は多良山系に囲まれた自然豊かなまち

九州地方

佐賀

福岡

大分

熊本

宮崎

鹿児島

沖縄

長崎

博多

福岡IC

福岡空港

唐津

新鳥栖

鳥栖JCT

伊万里

武雄北方IC

武雄温泉

佐賀

久留米

佐賀空港

佐世保

嬉野IC

嬉野温泉

鹿島市

多良

有明海

竹崎温泉

新大村

長崎空港

大村IC

諫早

諫早IC

長崎

長崎長崎

新玉名

高速道路

JR

新幹線

車で50分

祐徳稻荷神社

有明海の干潟

肥前浜宿 酒蔵通り

みかん

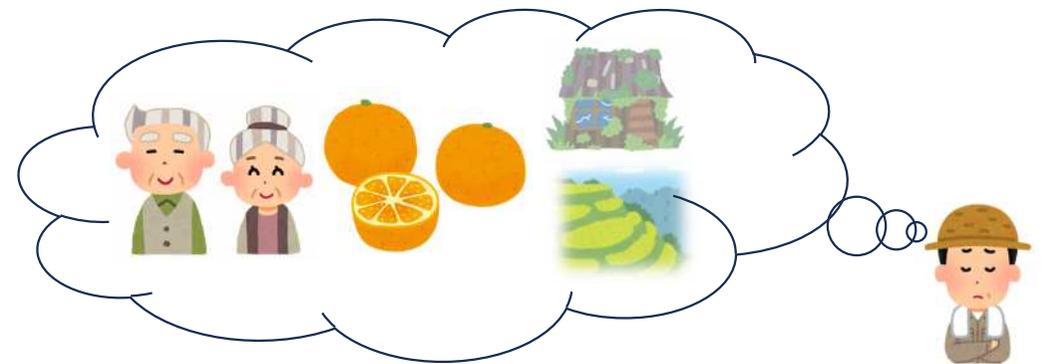
有明海の家

いいだ ななまがり
2. 飯田七曲地区の課題

★飯田七曲地区は標高300mに位置する中山間地域



- **過疎化** (人口減少、少子高齢化)
⇒ 約20世帯のうち 高齢者世帯がほとんど
- 農業 (特に果樹園) の **担い手不足**
⇒ 後継者がいない農家が半数以上
- **耕作放棄地** や空き家の増加
⇒ 厳しい耕作条件、山あいの生活環境



3. 現在の取組状況

地区の厳しい現状はあるものの…



ロケーションの素晴らしさに惹かれた**若い移住者**がいる!

➡地区住民と移住者が一緒になって地域づくり!

- ✓ 耕作放棄地を蕎麦畑へ
- ✓ 6次化産業に結び付けて高収益化
- ✓ 移住促進、農泊・インバウンド誘致



4. 提案いただきたいこと

先に挙げた現在の「**自発の地域づくり**」(※)を更に加速させるため、**地区住民とアイデアを出して協働してもらいたい!**

※地域が自ら考え行動し、トライ&エラーを繰り返しながら、地域資源を磨き上げる取組

【アイデア出し・協働の例】

- 効果的な**情報発信** (SNS活用等)
- 地域イベント(**かかしまつり**)の活性化
- 農産物加工研究施設(**みちしるべ**)の活用検討



加工研究施設 “みちしるべ”



かかしまつり



5. スケジュール案 (令和7年度)

6月

オンライン
ミーティング
以後、適宜実施

8月

現地活動①
現地視察、地元との
意見交換

11月

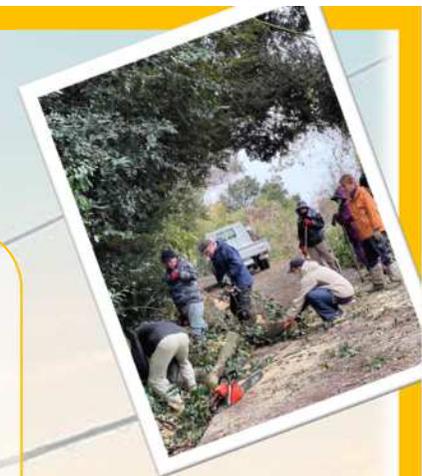
現地活動②
“かかしまつり”
への参画

3月

現地報告会
地域イベントの
時期にあわせて

※参加学生の皆様と調整しながら進めていきます。

ぜひ、鹿島へお越しください!
一緒に地域を輝かせましょう!



佐世保市宇久地域の 活性化について



長崎県 佐世保市宇久行政センター 産業建設課

佐世保市宇久地域の活性化について

▶ ① 宇久地域の概要

面積 約26.3km²

人口 1,752人 (R6.12.31時点)

平均年齢 63.6歳

- 佐世保港から高速船で約1時間半、博多港からフェリーで約4時間と、本土からのアクセス良
- 畜産業（繁殖牛）が盛んなほか、宇久ならではの生活が体験できる民泊を活かした観光や、ワーケーションによる移住定住の取り組みを推進
- 西海国立公園の美しい自然と五島家の始まり、捕鯨・海士などの歴史ロマンあふれる島



佐世保市宇久地域の活性化について

▶ ②地域の現状

- ・平成18年に佐世保市と合併後、15年間で4割を超える人口が減少
- ・高校の生徒数は1桁となり、高齢化は58%まで上昇し、**限界集落**となっている

持続可能なまちづくりに取り組むために！

- ・官民学協働で行動計画を策定
(『宇久島未来まちづくりプラン』)

- ・令和8年度より宇久高校離島留学制度開始



ワークショップの様子



長崎県立宇久高等学校

▶ ③ 取り組み課題

佐世保市宇久地域の活性化

【その1】

『宇久島離島活性化協議会』が自立化できる
仕組みづくりへのアイデア提案

- ・ 島外からの若者視点で、若手部会と共に
イベントの企画、立案。
- ・ 自主財源の確保や組織の自立化に向けた
取り組みの検討



▶ ③ 取り組み課題

佐世保市宇久地域の活性化

【その2】

地元高校生との交流による、
将来ビジョンの醸成

- ・島の高校生が描く『なりたい自分』に向けた助言や提案
- ・離島留学制度開始に向け、島外からの学生視点での意見や提案



▶ ④活動のスケジュール

時期	内容
6月	WEB打ち合わせ
6月～7月	学内で課題解決策の検討①
7月～8月	WEB打ち合わせ
8月～11月	宇久島での現地活動（3回）
12月～1月	学内で課題解決策の検討②
3月	WEBによる報告会



島に残る伝統文化の 担い手の在り方について



長崎県五島市

- 人口：34,391名 (R2国勢調査)
- 面積：420.90km²
- 構成：10の有人島
53の無人島
- アクセス：
福岡・長崎からそれぞれ、
飛行機・船が出ている

五島列島

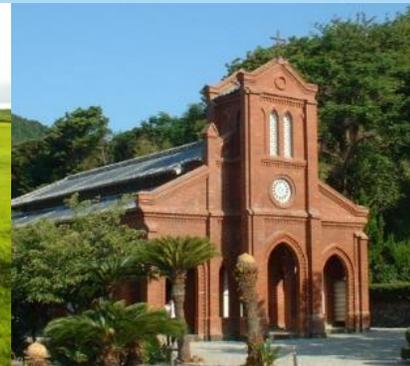
五島市

宇久町 (佐世保市)
小値賀町
新上五島町

中通島

西海

五島列島



過去2年間の東大FSで分かったこと

R5年度：伝統文化の子供たちへの継承について

R6年度：学校が廃校となった地域での伝統文化の継承について

担い手確保のため、祭りの当日だけ、地域外から参加者を募って、祭りを続けている

祭り当日の食事の準備は地域の女性が担ってきたが、負担軽減のため、弁当やオードブルを注文している

人が集まらないので祭りの準備や練習、話し合いの機会がどんどん減っている

担い手がいないので、踊り手の数を減らしている

なぜ私たちは「祭り」を残して来たのか

- ・神輿を担いだり、舞を踊る男性たちだけでなく、食事の準備・片付けなどを担う女性たちも含め、祭りの担い手ではなかろうか。
- ・またこうした地域住民の「コミュニケーションの場」であることが「祭りの本質」ではないだろうか

みなさんに期待すること

テーマ① 「祭りに参加する意義とその入口を探る」

- ・かつては青年団が祭りを担い、地域の大人として認められてきた
- ・人口減少、少子化により、青年団を維持することが難しくなっている
- ・移住者が地域住民との接点を持ってない

→移住者を巻きこみ、復活した荒川地区の神楽の在り方を調査し、なぜ移住者たちが伝統文化を担えたのかを明らかにして欲しい

→対象として、地域住民だけでの維持ができなくなり、消失してしまった祭りについて調査し、なぜ維持できなくなったのかを探る

担い手の理想的なあり方、取り込み方を検討する

みなさんに期待すること

テーマ② 「そもそも祭りとはなにかを探る」

- ・他地域から当日だけ人を寄せ集め、どうにか維持している祭りの意義とは
- ・「装束を着て祭りを担う男衆」と「食事の準備をする女性陣」では、祭りに対してどのような意味合いの違いがあるのか

→住民や宮司、研究者などへの聞き取り調査を行い、住民にとって、現存する「祭り」とは何かを語り合う

→伝統文化を「遺跡」としてとらえ、今の姿のまま保存すべきなのか？状況に応じて、変化していくべきなのか？



地域にとっての祭りの意義と継承の在り方をまとめる

活動スケジュール（イメージ）

6月：オンラインでの打ち合わせ

- ・五島市の概要と市内の伝統芸能を紹介
- ・プロジェクトについて打ち合わせ



9月：現地活動①

- ・調査フィールドの視察
- ・伝統芸能関係者へのヒヤリング
- ・一度消えかけた神楽が、移住者を巻きこみ復活している事例を確認



10月：現地活動②

- ・奈留島、栴島での例大祭を視察（参加）しながら、関係者へのヒヤリング



2月：現地報告会

- ・五島市民に向けて、「担い手のあり方」について活動報告を行う

『かちやあクエスト』

～あさぎり町の地域資源を活かした体験型ツアーの構築～

熊本県球磨郡あさぎり町

地域おこし協力隊

森田孝政、石川智一、櫻井慎也

あさぎり町ってどんなところ？

- ◆ 熊本県の南部
人口約1万4000人の町
- ◆ 人吉球磨盆地の中央部
町の中央には球磨川が流れてる
- ◆ 主幹産業は農業
たばこ、薬草の生産地
- ◆ 約20年前に5町村が合併
朝の霧が深いことから「あさぎり町」
- ◆ 11月～2月にかけて雲海が見れる日もある



「かちやあクエスト」とあさぎり町の課題

「かちやあ」とは

球磨地方の方便で
「助け合い」の意味

学生と地域住民で助け
合いながらツアーを作る

目的

都市部の方から見た
「あさぎり町の価値ある
地域資源」を発信

あさぎり町の関係人口や
移住・定住希望者を増やす

課題

- ①「あさぎり町」の
認知度不足
- ②地域資源の
認識不足
- ③ 少子高齢化、
生産年齢人口の減少

地域資源を活用する現在の取り組み

現在の取り組み

- ①緑の流域治水プロジェクトによる環境保全活動(雨庭・田んぼダム)
- ②脱炭素プロジェクトによる「炭化器を使った竹炭作り」
- ③「大地の再生」の考え方を取り入れた里山を守る活動
- ④空き家の改修による長期間滞在施設の準備



東京大学の学生に求めること

- ①地域資源を活かしたツアー内容の作成
- ②あさぎり町のシティプロモーション方法の提案
- ③地域住民と「あさぎり町の活性化」に向けた意見交換
- ④学生視点での空き家の利活用や古民家再生についての提案

地元では「当たり前」と思われていても

周りから見ると「価値のあること」を見つけて頂きたい

2025年度東大FS 事業スケジュール(予定)

ぜひ、あさぎり町に来てください！！

時期	内容
6月下旬	オンラインミーティング
8月～9月	現地活動(現地視察、体験、地元民との交流・意見交換)
11月～12月	現地活動(現地視察、体験、地元民との交流・意見交換)
1月～2月	オンラインミーティング
3月	現地報告会

鎮山親水プロジェクト

～森と水を未来へつなぐ挑戦～



熊本県山江村

山江村の概要

- 平成元年に開通した九州自動車道が南北に縦断しており、熊本市内から車で約1時間、隣接する人吉市の中心部からは車で約10分と交通の便に恵まれています。
- 人口：3,157人（男：1,472人・女：1,685人）令和7年2月末現在
- 世帯数：1,193世帯
- 高齢化率：38.14%
- 年少人口率：13.78%
- 面積：121.19km²（約90%が山林）
- 集落数：16区67集落
- 産業別人口
 - 第一次産業 288人（17.7%）
 - 高齢化率（農業）：68.4%
 - 農地面積：6.30km²
 - 第二次産業 393人（24.1%）
 - 第三次産業 950人（58.3%）
- 基幹産業は農林業（主な特産品：栗・米）

「やまえ栗」が特産品。栗まつりの開催や栗の日の制定など、栗が村のアイデンティティとなっている。栗の出荷量は410トン（昭和62年）に達して最盛期を迎えたが、現在は高齢化、担い手不足、環境変化により生産量約70.0トンに減少。

令和6年3月に地理的表示保護制度(GI)登録



やまえ栗

農林水産大臣登録第151号



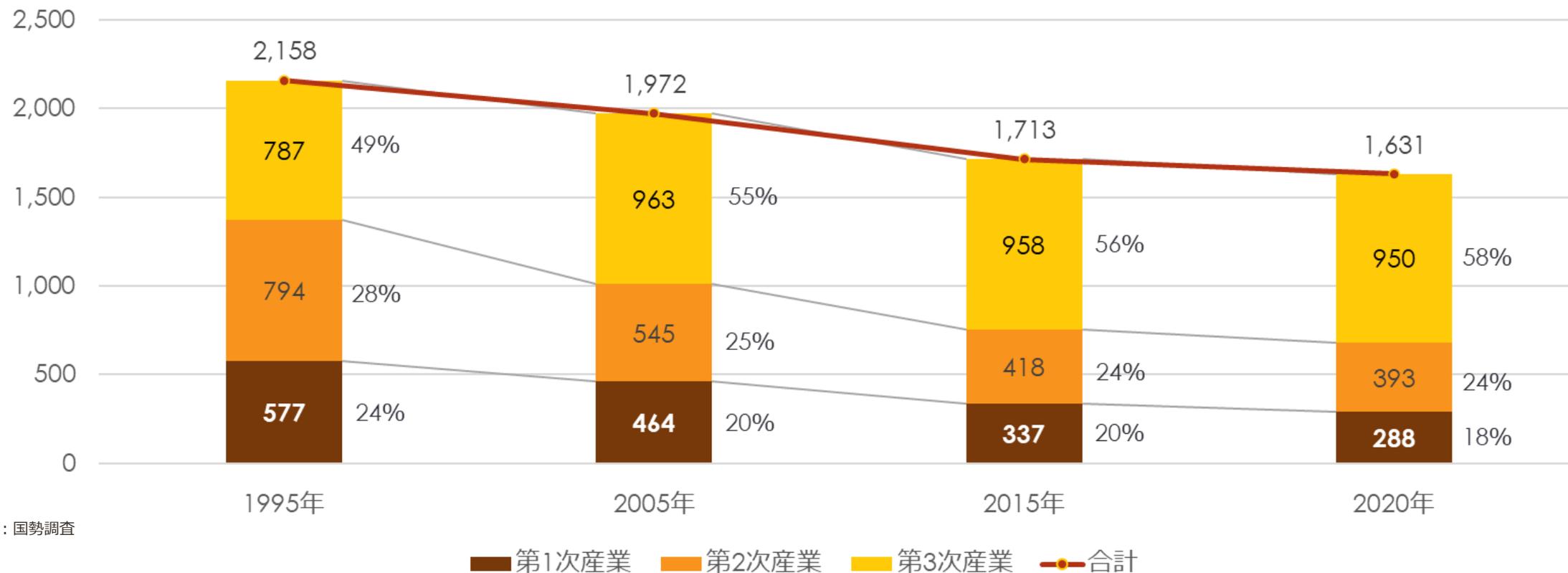
総人口の減少に伴い、就業者数は減少傾向にある。特に、山江村の基幹産業である第1産業の就業者数の減少は顕著であり、全就業者数に対する割合でも減少傾向である

産業（大分類）別 就業者数の推移

- ▶ 総人口減少に伴い、就業者数は減少傾向にあり、特に2020年の第1次産業就業者数は1995年対比50%減少と顕著である
- ▶ 就業者の割合では第3次→第2次→第1次の順であり、近年に近づくにつれてこの傾向は強くなってきている

[人]

産業三分類就業者数



現在

- 壊された川
- 見向かない山
- 希薄したコミュニティ

令和2年7月
豪雨災害発生



※被災状況(万江川・山林)、ワークショップ

《地域住民の声》

基本理念

鎮山親水 (ちんさんしんすい)

自然との共生意識や畏敬の念を持ち、自然と親しむと同時に怖さを知り、自然との関わり方を見直すことを表した山江村復興事業の基本理念

未来像

- ◆ 山を守り、川と山との共存
- ◆ 災害に強く
自己治癒力の高い村づくり
- ◆ 自治コミュニケーションの再構築
- ◆ 復興による地方創生の実現

林業振興施策一覽

- ① 鎮山親水植樹祭(皆伐地への植樹活動)
- ② 鎮山親水林業塾(自伐型林業)
- ③ 村有林の管理
- ④ 鳥獣害対策(シカ・イノシシ・サル等)
- ⑤ 災害復旧事業(林道・作業道・治山)
- ⑥ 特用林産物の振興

② 鎮山親水林業塾 (共催:九州林業塾)

(目的)

豪雨災害後、山林の木材と土砂の流出が多くみられた。山の管理が必要であるため、災害に強い林業である自伐型林業家（環境保全型林業）育成のため。

(参加者) R5年度：11名・R6年度：9名

(内 容)

- 小型バックホウ等の資格取得
- 立木の伐倒
- 作業道の開設
- 間伐木の選定など

(効 果)

- 卒塾生による林業団体の発足
- 村民の山林へ目を向けるきっかけ
- 卒塾生に対し、山主さんが期待
※山の管理をしてくれるのではないかと

植樹活動の様子

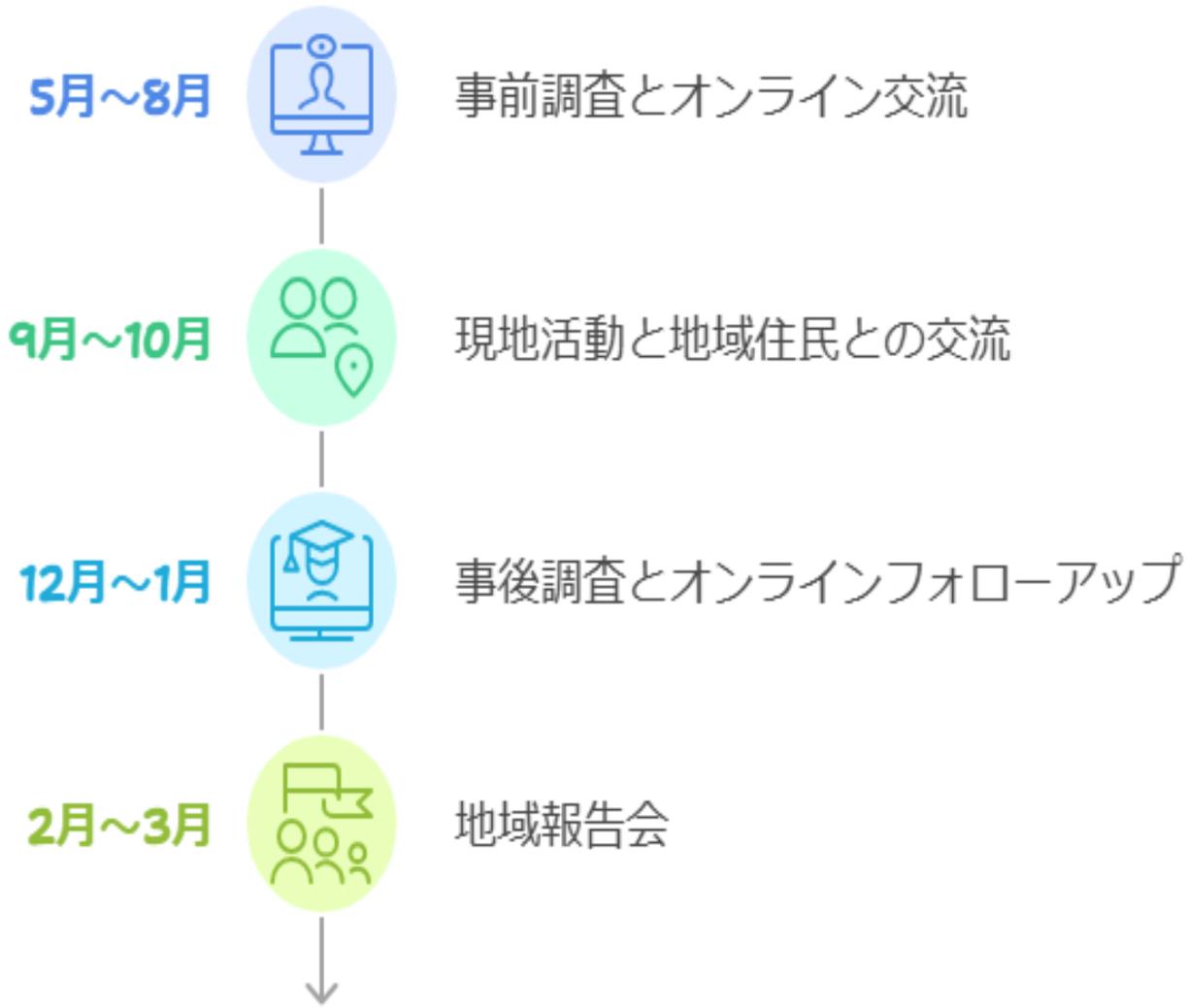


上流域：大川内

治山施設から溢れる土砂



地域参加のためのプロジェクトタイムライン



■背景と課題

自伐型林業塾で学んだ人たちが、森林保全と収入増を目指し「鎮山親水 千年の森づくりクラブ」を発足。しかしながら、担い手不足の観点からも森林所有者をはじめ、森林や環境保全に興味のある方々の自伐林業への取り組みを更に広めたい。

また、本村は「ゼロカーボンシティ宣言」を表明し、2045年までにはCO2排出量実質ゼロを目指している。施策の一つとして“バイオマス発電設備の導入”も検討しており、専門的な知見から自伐型林業に絡め、木材の安定供給への方策を考えたい。

■学生の皆さんに期待すること

- 現地調査では、地域住民や森林関係者、クラブ及び行政と連携し積極的な意見交換を行う
- 木材資源活用と価値創出のため、新しい活用方法（工芸品、薪、バイオ炭など）を考える
- 1年間の活動に限らず、次年度以降も後輩を連れて継続的な関係を築く

東京大学 フィールドスタディ型 政策協働プログラム ～宮崎県諸塚村～

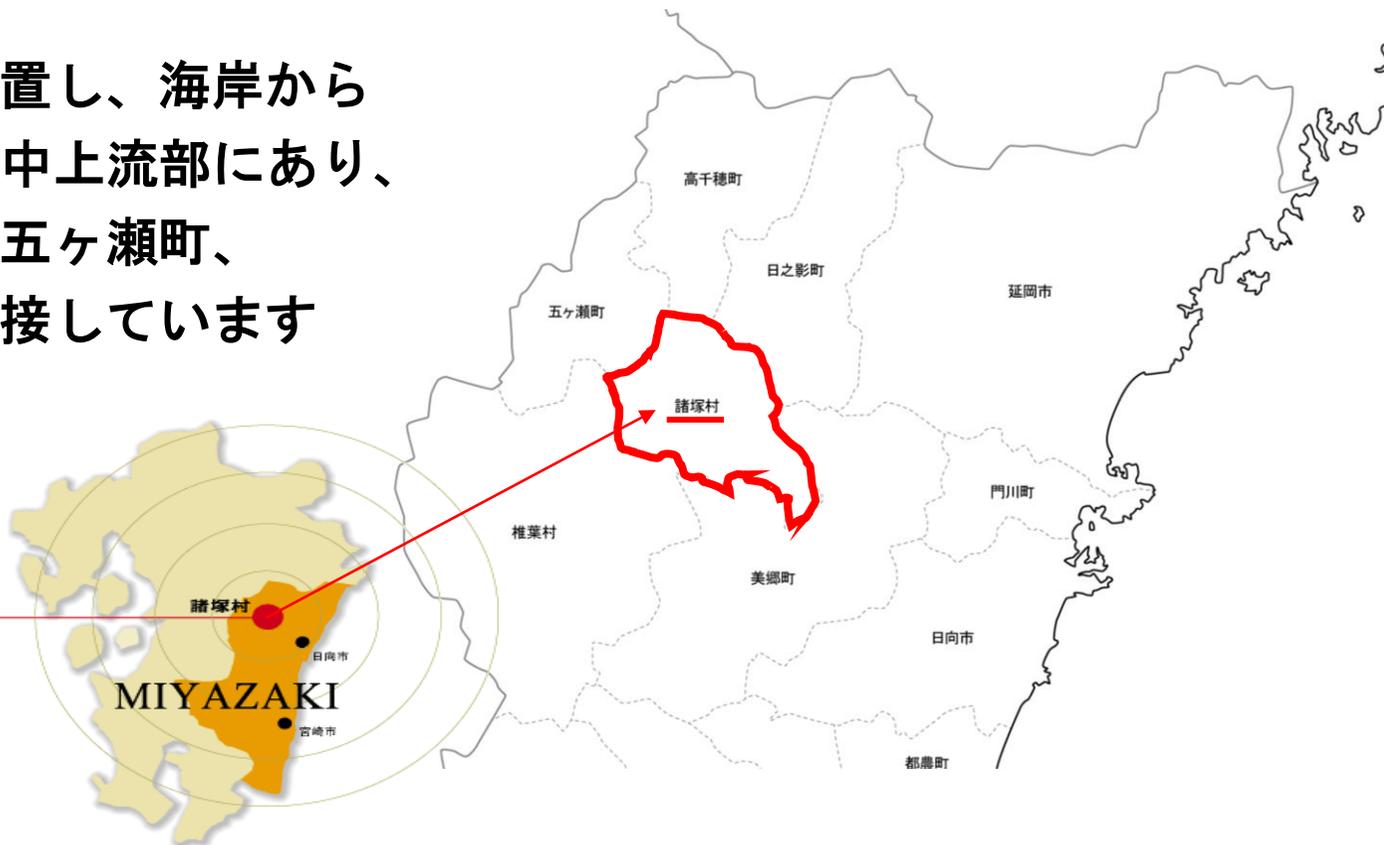


For me, the trick to writing a novel,
or what I say elements, is the same as music.
First, there must be a rhythm.
Then you need harmony. And improvisation.
(The first elements are extremely crucial for me.)

諸塚村について（地理）

宮崎県の北西部に位置し、海岸から約50km隔てた耳川の中上流部にあり、椎葉村、高千穂町、五ヶ瀬町、日之影町、美郷町に接しています

Morotsuka
Access



村土は諸塚山などの標高1,000m級の急峻な山々に囲まれ、約95%を山林が占め、平地や耕地は、わずか1%程度です。

諸塚村について（人口）

人口：1,282人（R7.3.1現在）

世帯：572世帯（R7.3.1現在）

年齢別人口：15歳未満	150人（10.09%）
15歳以上65歳未満	657人（44.21%）
65歳以上	678人（45.63%）

産業別人口：第1次産業	346人（40.95%）
第2次産業	122人（14.44%）
第3次産業	377人（44.62%）

※年齢別人口及び産業別人口は
令和2年度国勢調査のデータ

諸塚村について（森林資源）

古くから造林に際し、しいたけ原木を確保するため、3割はクヌギを植栽することを目標に造林してきました。その結果、約60%がスギなどの針葉樹、約40%がクヌギなどの広葉樹となり、諸塚村特有の「モザイク林」が形成されています。この森林は、水源かん養や災害に強い森林として注目をされています



諸塚村について（産業）

1957年（昭和32年）に、村の主要な産業である「林業、椎茸、茶業、畜産（和牛）」を四大基幹産業と定め、村民の多くは、これらの複合的な経営で生計を立てています（農林業複合経営）。



諸塚村について（観光）

標高800m付近に位置する自然豊かな森に囲まれたキャンプ場「池の窪グリーンパーク」、セツ山川のそばに位置し、溪流釣りが楽しめるキャンプ場「溪流の里」、モザイク林相の山肌を一望できる「出逢いの森」、希少植物が生息している「諸塚山」や「黒岳」など、自然を感じることができる観光地が村内各所にあります。



池の窪グリーンパーク

諸塚村について（集落）

標高150～850mの山腹に、88の小集落が点在し、16の自治公民館（地区）を組織しています。この自治公民館組織の活動は、全国でも類を見ない「諸塚方式」と言われ、自治組織を形成し、行政と密接な連携を図りながら地域づくりを行っています。

公民館長会



祭り（神楽）の様子



諸塚村について（自治公民館制度）

諸塚村の自治公民館活動

（ 組織 ） について

【諸塚方式】

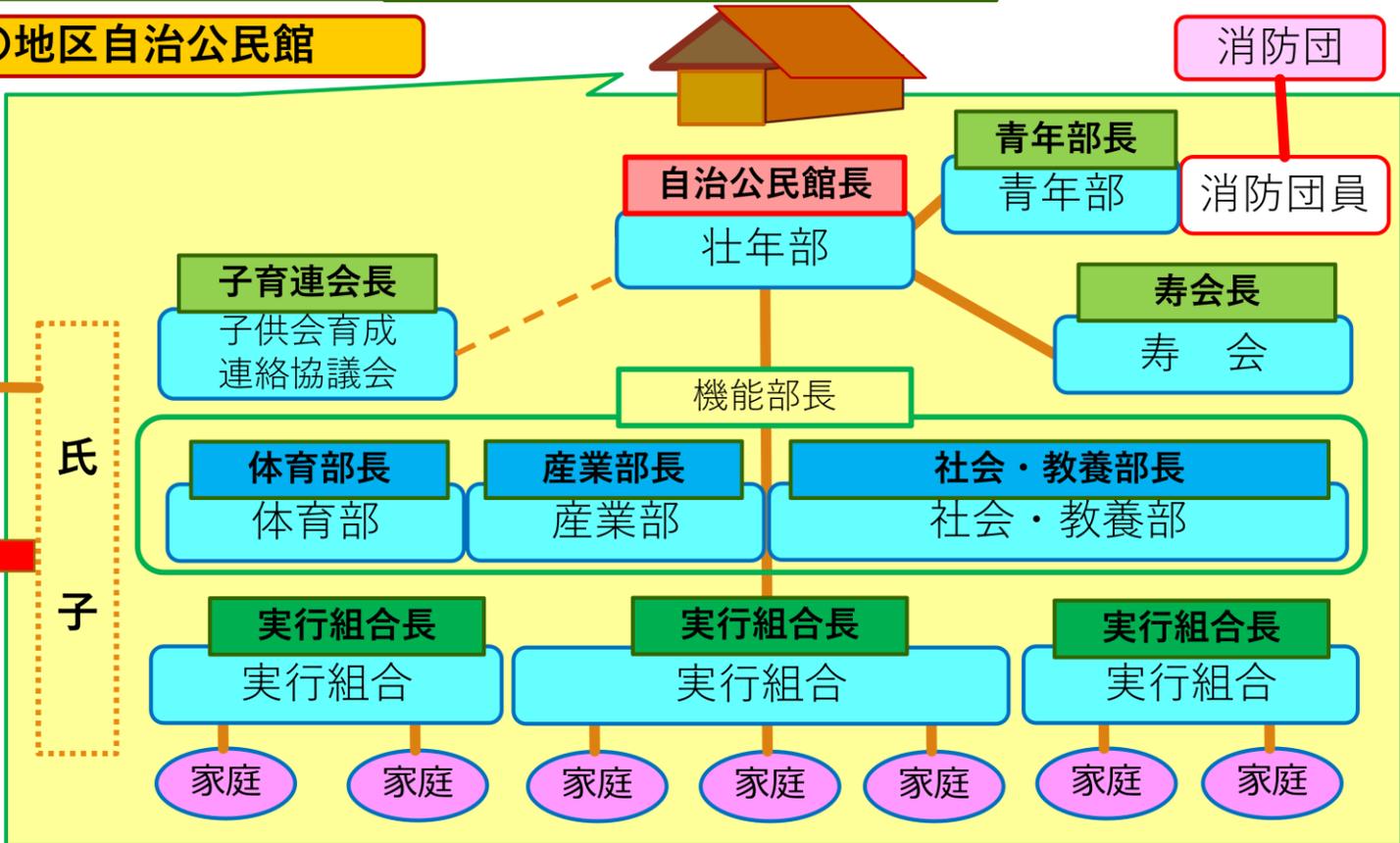
〇〇地区自治公民館

地域で共同
で祀る神社



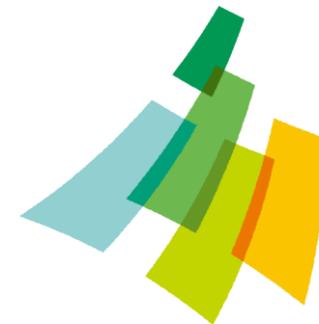
氏子総代

祭り
行事



諸塚村について（世界農業遺産）

諸塚村は、宮崎県と県北部の5町村による「高千穂郷・椎葉山地域」として、2015年12月に世界農業遺産に認定されています。世界で見ると34番目、日本では6番目となります。この地域は、平地が少なく、農業生産としては厳しい条件下にあります。このハンディキャップを逆手に取り、地域の特性を生かし、豊かな森林と共生し、単一作物に依存せず、その自然環境を生かした林業も含めた山間地の農林業複合の取り組みが評価されました。世界農業遺産に林業地域が認定されたのは、世界初の事例です。



世界農業遺産
高千穂郷・椎葉山地域
GIAHS Takachihogo - Shiibayama

諸塚村について（FSC森林認証）

諸塚村と森林組合、林業家等が参加した「森林認証研究会」を設立し、当時の日本では適用しづらかったヨーロッパ型の認証取得審査をを勉強するなど、FSC®森林認証を取得するための活動を村ぐるみで取り組み、2004年に念願のFSC®森林認証を取得。村産の木材にFSC®の付加価値がついたことはもちろん、現在でこそ国外ではナッツ類のFSC®認証製品が存在するが、当時、食品関係のFSC®認証製品はほとんど例がなく、諸塚村の認証しいたけは国外でも大きく取り上げられることとなりました。



FSCの認証が表記された
乾しいたけ

諸塚村について（大学との交流）

諸塚村では、村観光協会と協働でインターンシップ受入事業を展開しており、これまで東京大学や宮崎大学をはじめ、全国の大学から約100名もの大学生が村に滞在し、村民との交流や村での暮らしの体験などを通し、様々な政策の提言や地域振興に関する助言等をしていただきました。



東大F S生の森での活動



村民との交流

東大F Sで実現した政策

東大F S生の皆様が提言していただいた政策の中で、実際に取り組んだ事業を一部ご紹介します。



五月祭の出店

過去の東大F S生が村産の焼き椎茸や特産品を販売し、村のPRに協力いただきました。



東大F S生の森づくり

村有地の一部を「東大の森」とし、森林づくりやこれからのF S生の交流の場として整備を進めます。

2024年の東大FS

9月

- ぎやあな祭への参加、運営補助
- 椎茸生産場見学
- 農泊体験



11月

- セツ山臼太鼓 見学
- 廃校利活用ワークショップ参加



3月

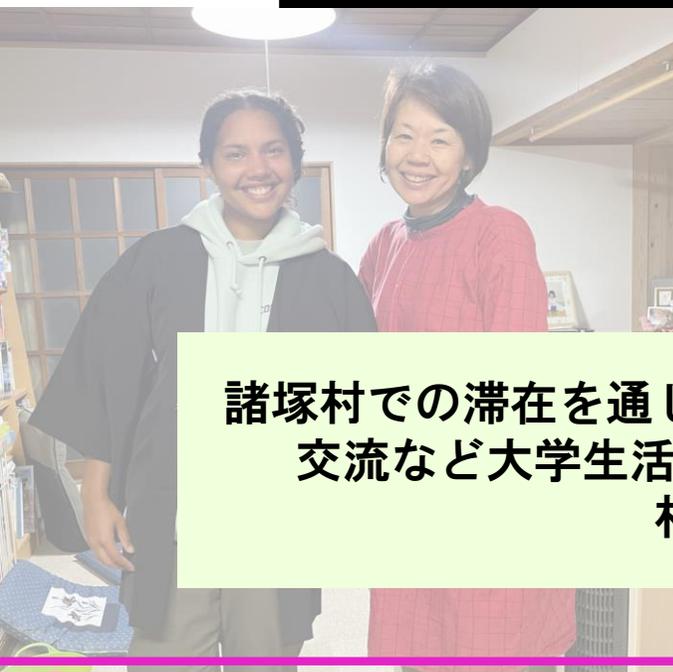
- 村内事業所見学
- 桂 初午祭見学と地元住民との交流
- 東大FS生の森植生調査





大募集!

ぎやあな東大生!!



諸塚村での滞在を通して、中山間地ならではの暮らしや温かい地元住民との交流など大学生活だけでは得られないなにかを見つけてみませんか？
村民一同心よりお待ちしております。

